

第2章 飯塚市の地域特性と公共交通の現状

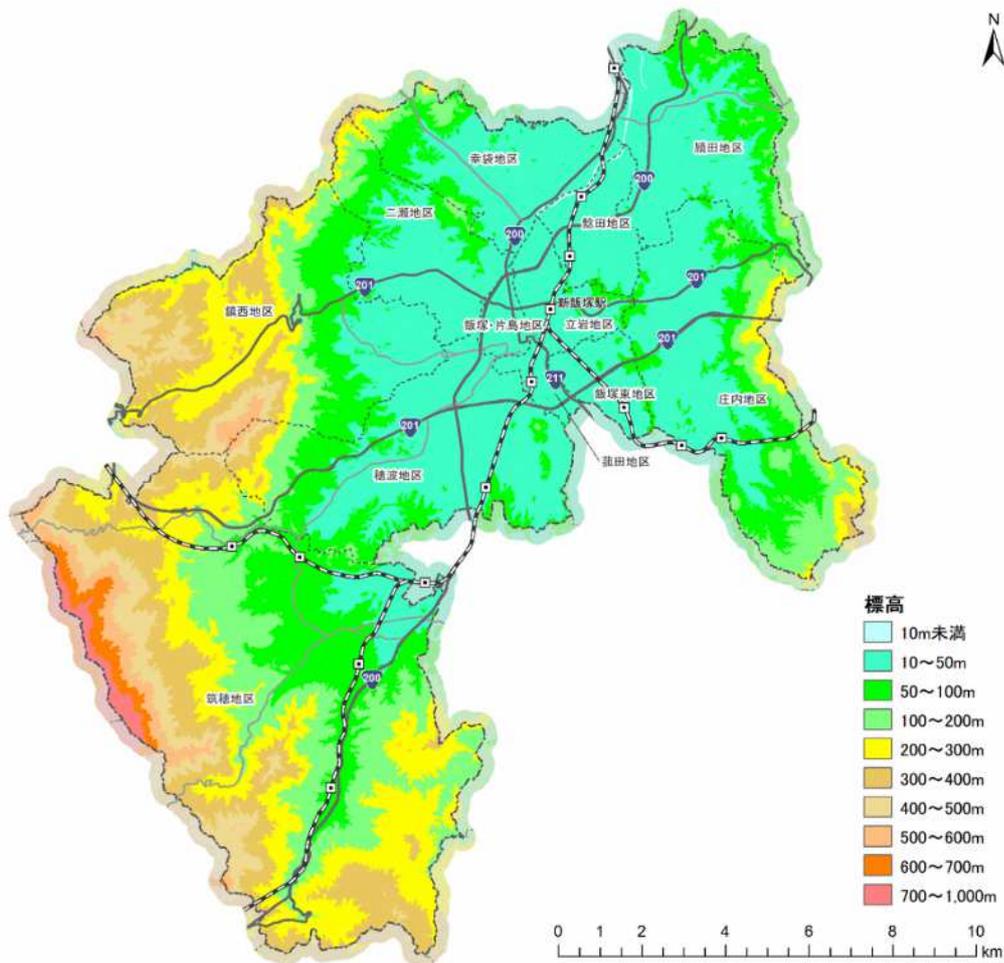
1 飯塚市の地域特性

飯塚市内の地域公共交通における課題を把握するために、各種データ（人口の状況、通勤・通学流動、土地利用、施設分布など）を収集・整理しました。

1-1 地勢・沿革

1) 地勢

- 本市は、福岡県のほぼ中央に位置し、西は福岡市を中心とする福岡都市圏に、北は北九州市を中心とする北九州都市圏に近接し、面積 213.96 km²の市域を有する。市域内には国道やJRが東西南北に通過しており、交通の要衝としての特性を持っています。
- また、市域中央には南北に流れる遠賀川に沿って平野が広がっており、東は関の山、西は三郡山や龍王山等に囲まれ、良好な自然環境が多く残されています。周囲を囲む山地により盆地を形成しているため、夏冬、昼夜の気温差が大きく、内陸性気候の特性を持っています。

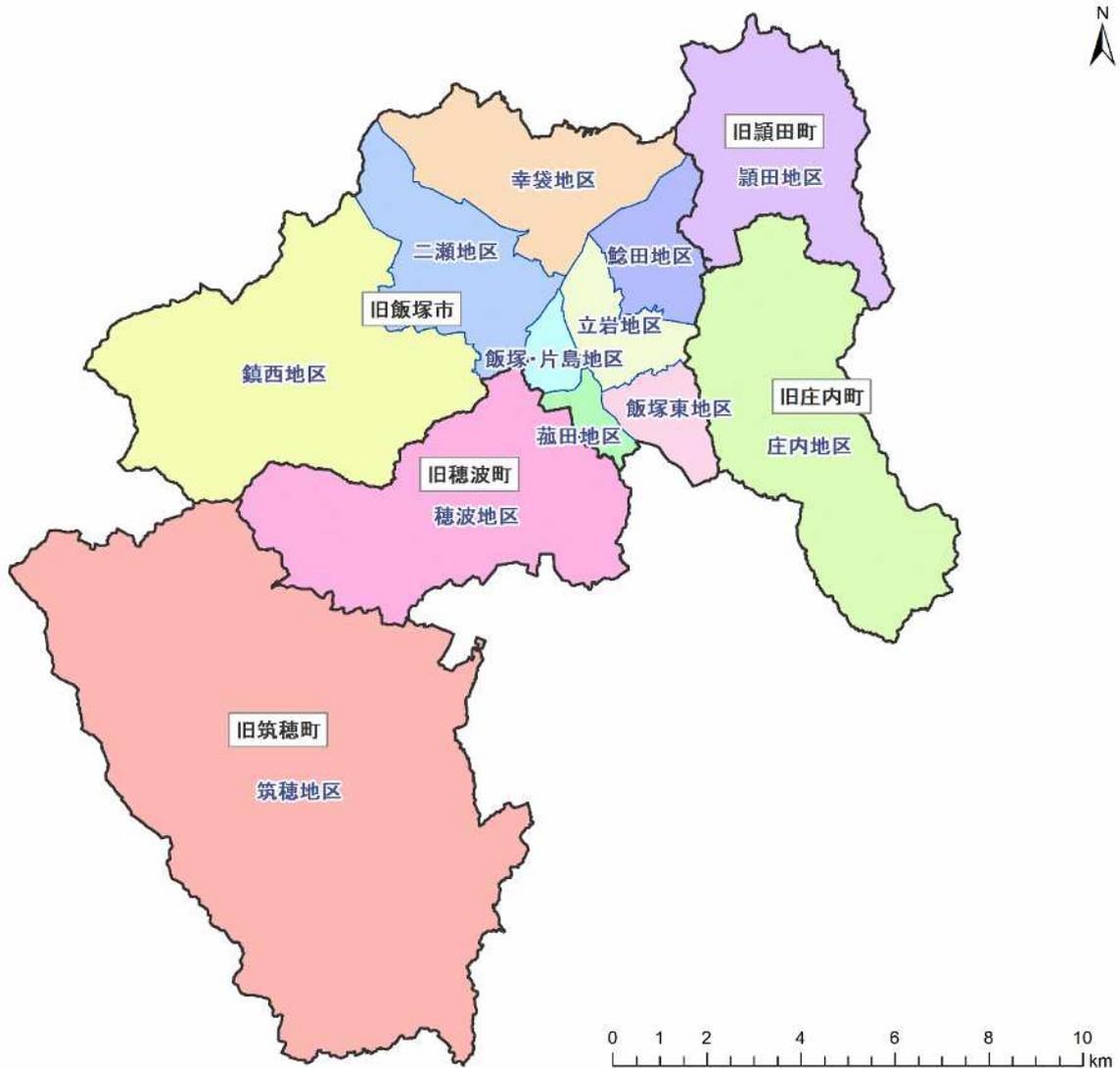


資料：基盤地図情報

▲ 飯塚市の地勢

2) 沿革

- 本市は、平成18年3月26日に旧飯塚市、旧穂波町、旧庄内町、旧筑穂町、旧穎田町の1市4町が合併し、新しく「飯塚市」が誕生しました。
- また、市内には12か所の交流センターを拠点とした「まちづくり協議会」が設置されています。

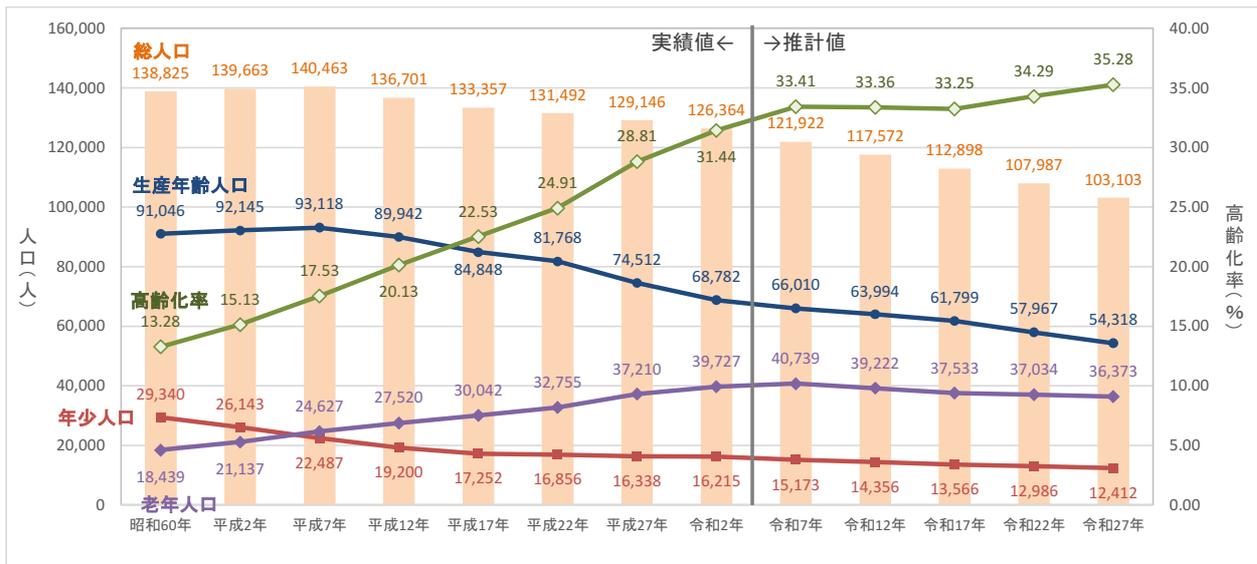


▲ 旧市町村界及び地区界

1-2 人口

1) 人口及び高齢化率の推移

- 飯塚市の総人口は平成7年の140,463人をピークに減少傾向となっており、令和22年には11万人を下回ると推計されています。
- 年齢3区分別人口を見ると、年少人口（0～14歳の人口）と生産年齢人口（15～64歳の人口）はそれぞれ昭和60年、平成7年をピークに減少しており、将来についてもこの傾向は変わらないと推計されています。
- 老年人口（65歳以上の人口）は増加傾向になっていますが、令和7年の40,739人をピークに減少に転じると推計されています。
- 総人口に占める老年人口の割合を示す高齢化率は、令和2年には30%を超え、令和27年には35%を超える見込みです。
- 平成17年から令和2年までの人口推移を地区別にみると、どの地区も老年人口は増加傾向にあります。
- 令和2年現在の高齢化率が飯塚市全体よりも高いのは、幸袋、筑穂、颯田、菰田、飯塚東、鯉田の計6地区（全12地区）となっています。



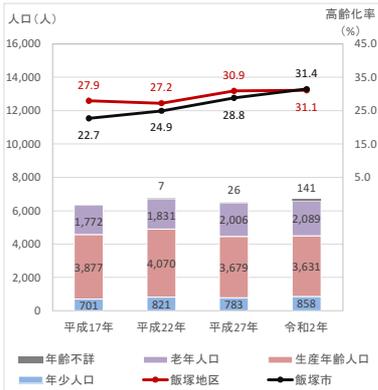
資料：令和2年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

実績値：総務省「国勢調査」より集計（総人口は年齢不詳を含むため、年齢3区分別人口の合計値と一致しない）

推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より集計（平成27年の国勢調査を基準としたもの）

▲ 飯塚市の将来人口推計

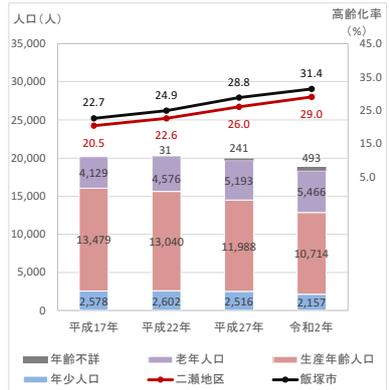
【飯塚・片島地区】



【立岩地区】



【二瀬地区】



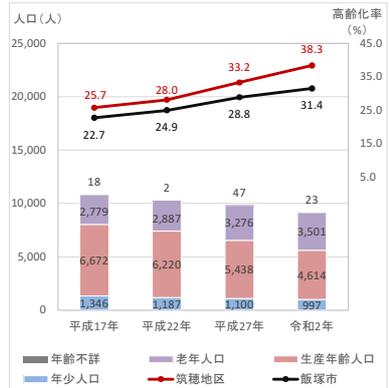
【幸袋地区】



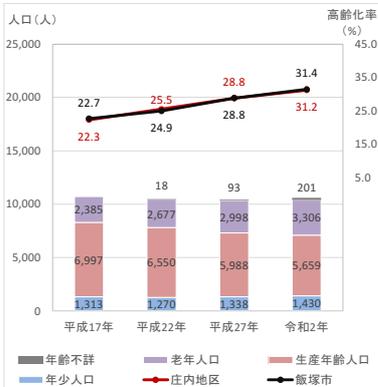
【穂波地区】



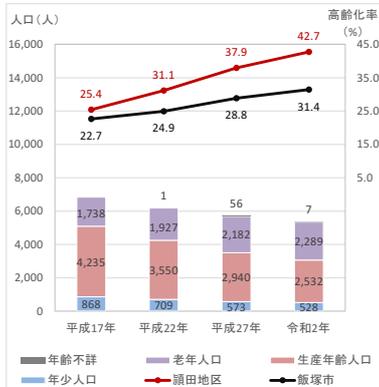
【筑穂地区】



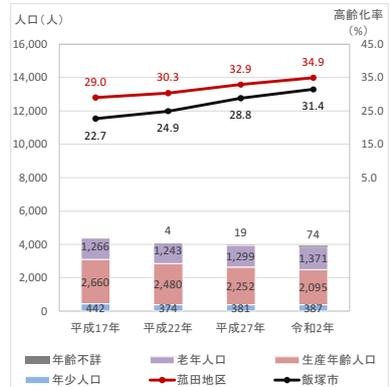
【庄内地区】



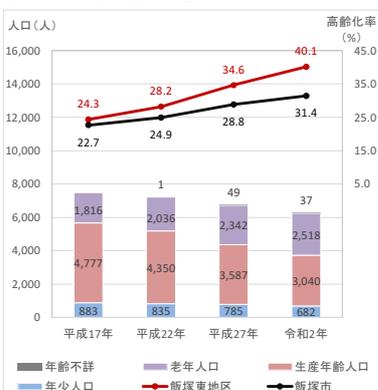
【頰田地区】



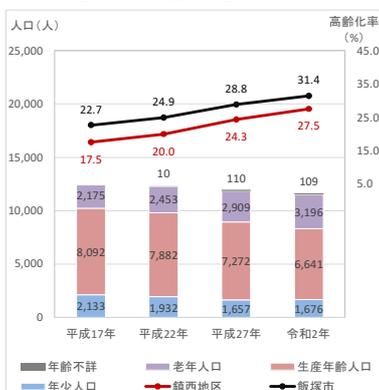
【菰田地区】



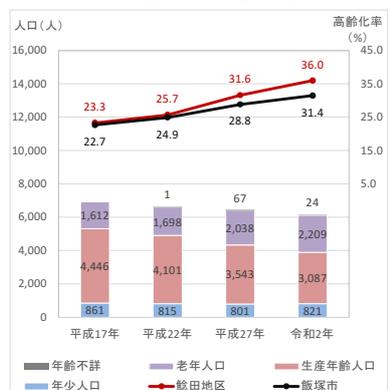
【飯塚東地区】



【鎮西地区】



【鯉田地区】

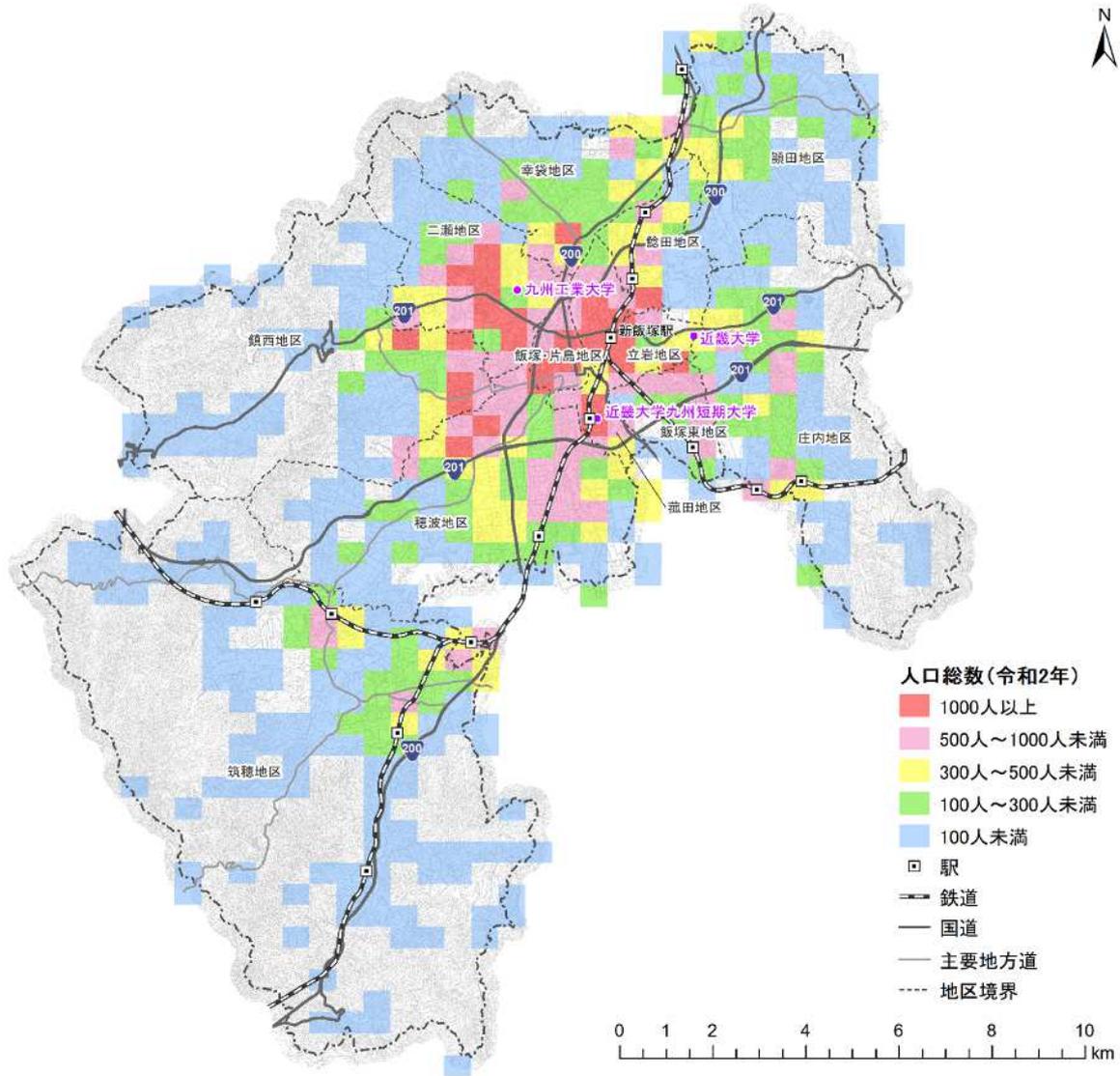


資料：国勢調査各年

▲ 飯塚市の地区別人口推移

2) 人口分布

- 飯塚市の人口分布を見ると、市内中心部や鉄道沿線に人口が集中しているほか、九州工業大学のある相田・伊岐須周辺や近畿大学のある柏の森・下三緒周辺で人口集積がみられます。

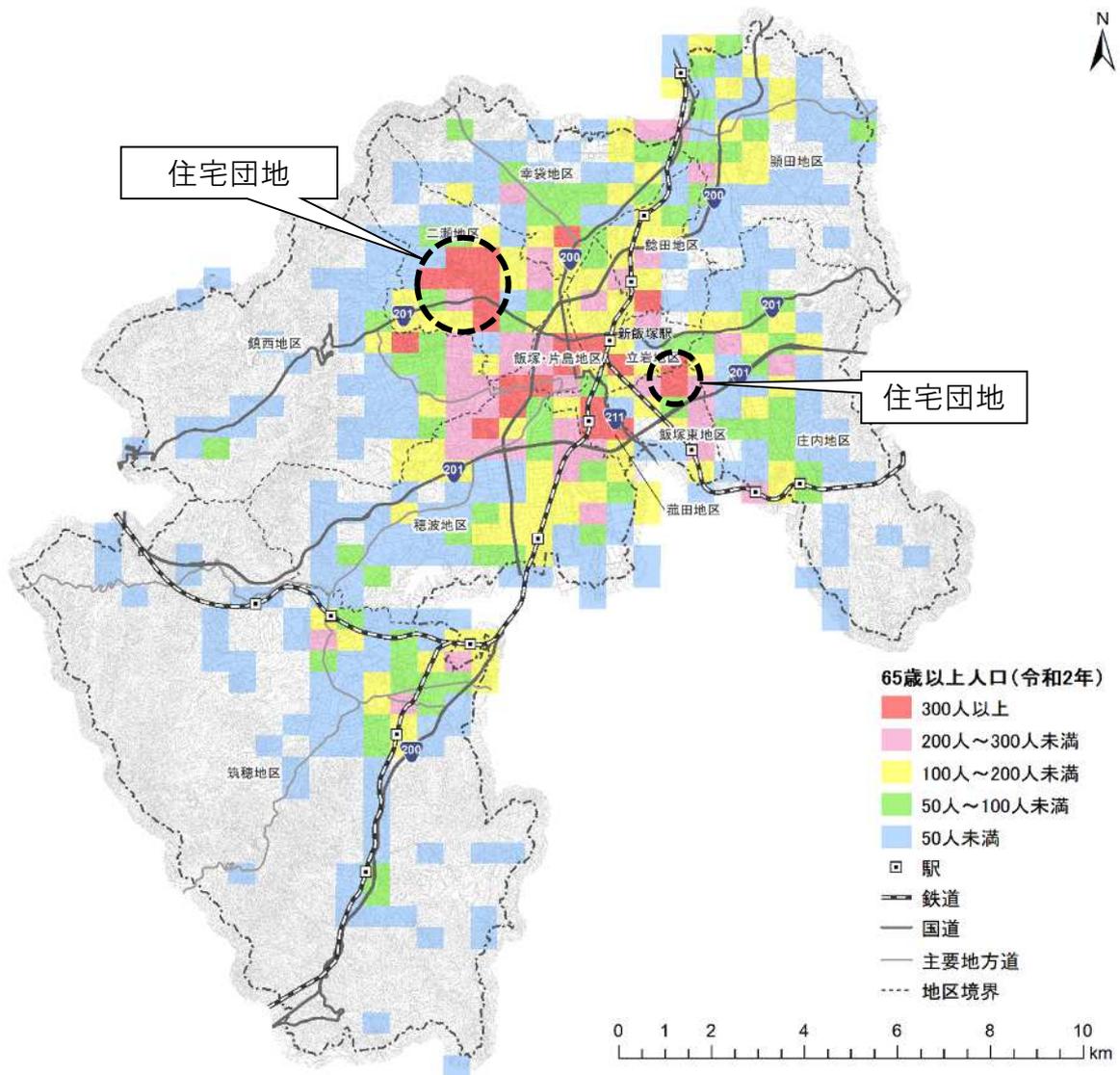


資料：令和2年国勢調査

▲ 飯塚市 人口分布(500mメッシュ)

3) 高齢者の分布

- 65歳以上の高齢者人口の分布状況は人口分布に即しており、相田・伊岐須や柏の森・下三緒の住宅団地周辺で高くなっています。

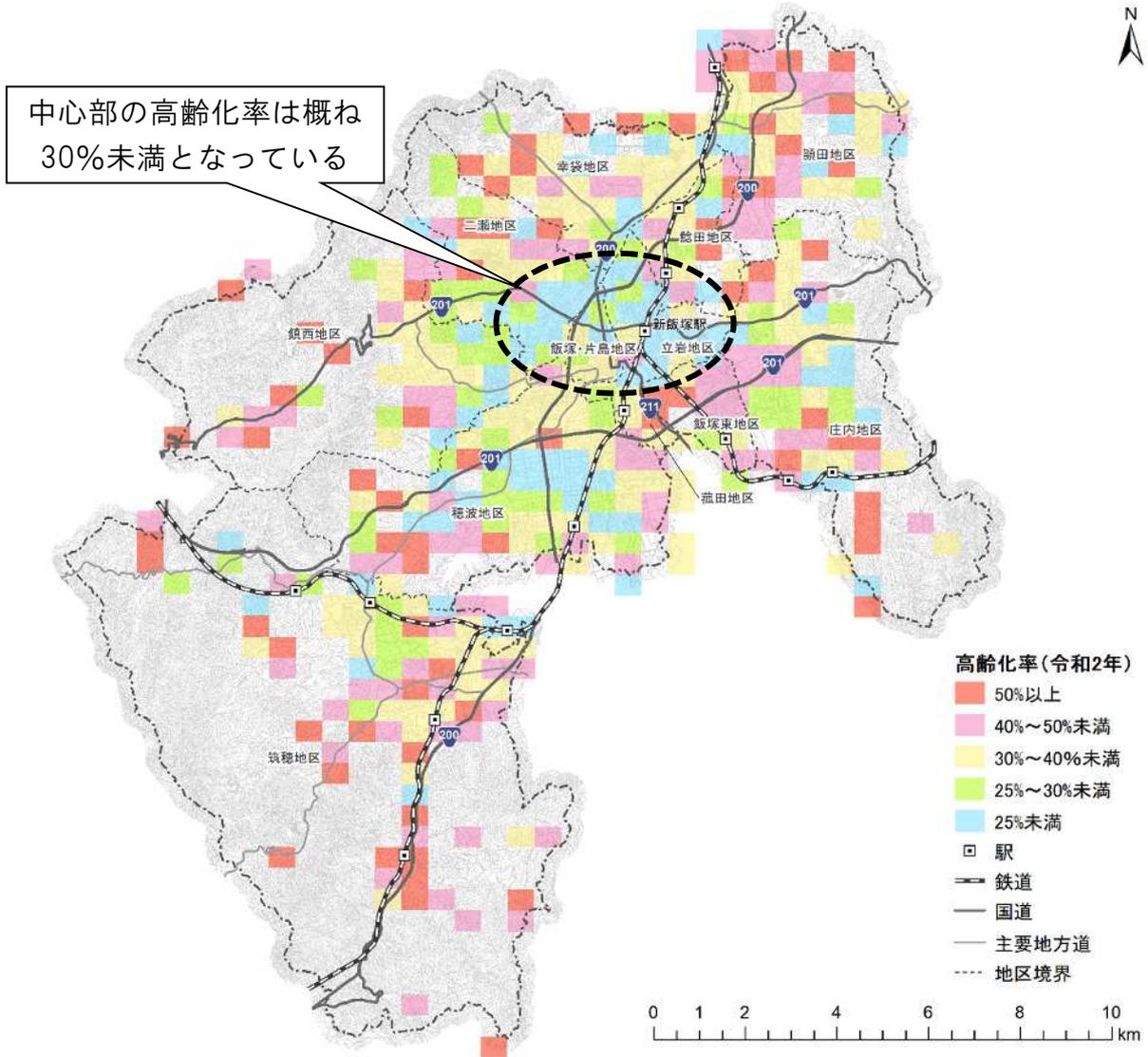


資料：令和2年国勢調査

▲ 飯塚市 高齢者の分布 (500mメッシュ)

4) 高齢化率の分布

- 市内中心部の高齢化率は概ね 30%未満となっていますが、中心部以外では高齢化率 50%以上の地域が散見しています。

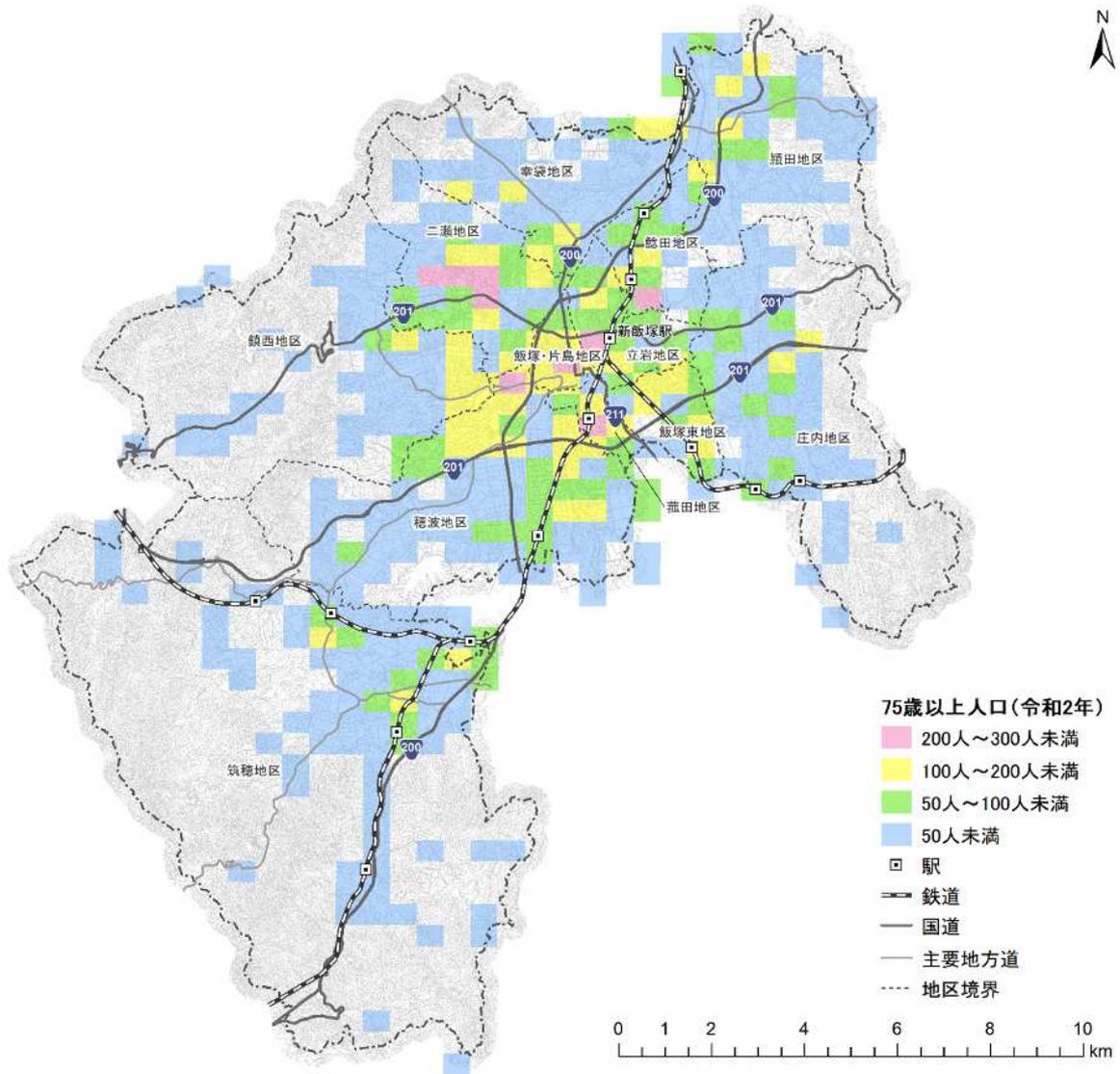


資料：令和2年国勢調査

▲ 飯塚市 高齢化率の分布（500mメッシュ）

5) 後期高齢者の分布

- 75歳以上の後期高齢者人口の分布状況は、市内中心部や鉄道沿線のほか、相田、枝国などで人口の集積がみられます。

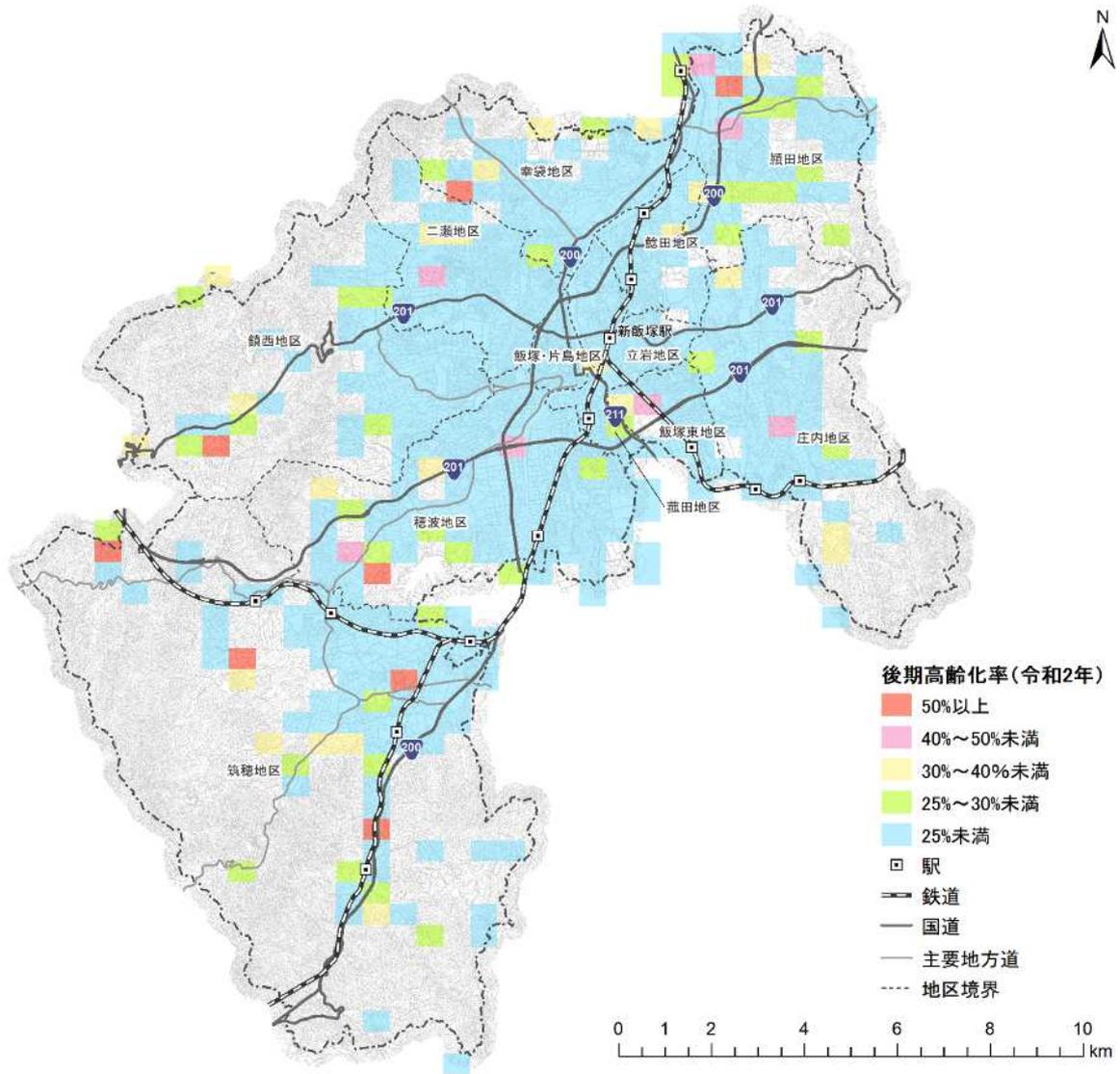


資料：令和2年国勢調査

▲ 飯塚市 後期高齢者の分布 (500mメッシュ)

6) 後期高齢化率の分布

- 鎮西地区や筑穂地区の山間部のほか、勢田、庄司などの一部の地域で後期高齢化率 50%以上の地域がみられるものの、概ね 25%未満となっています。

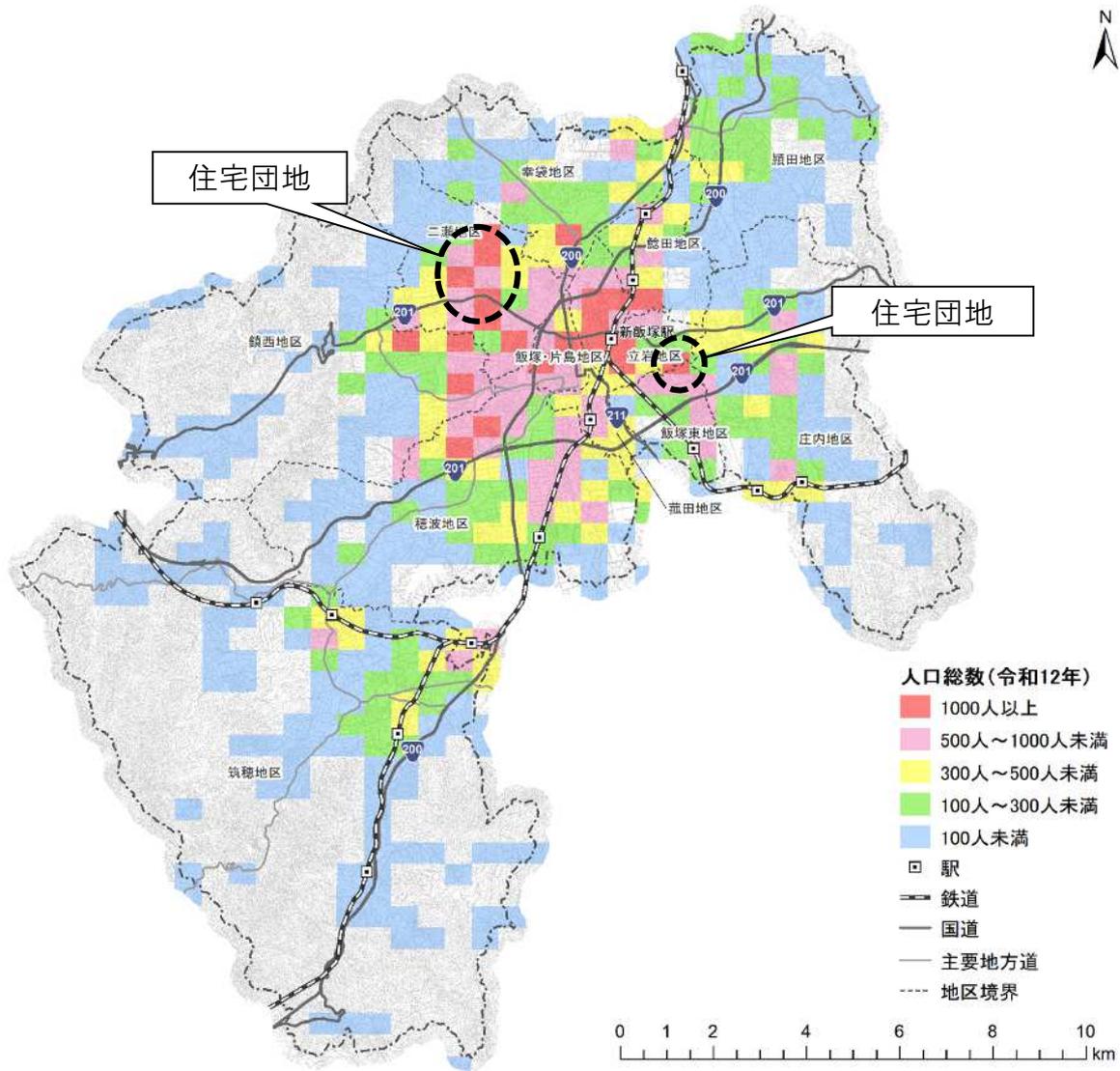


資料：令和2年国勢調査

▲ 飯塚市 後期高齢化率の分布 (500mメッシュ)

7) 将来人口

- 令和12年の将来人口は、市内中心部のほか、住宅団地のある相田・伊岐須周辺や柏の森・下三緒周辺で人口集積がみられます。

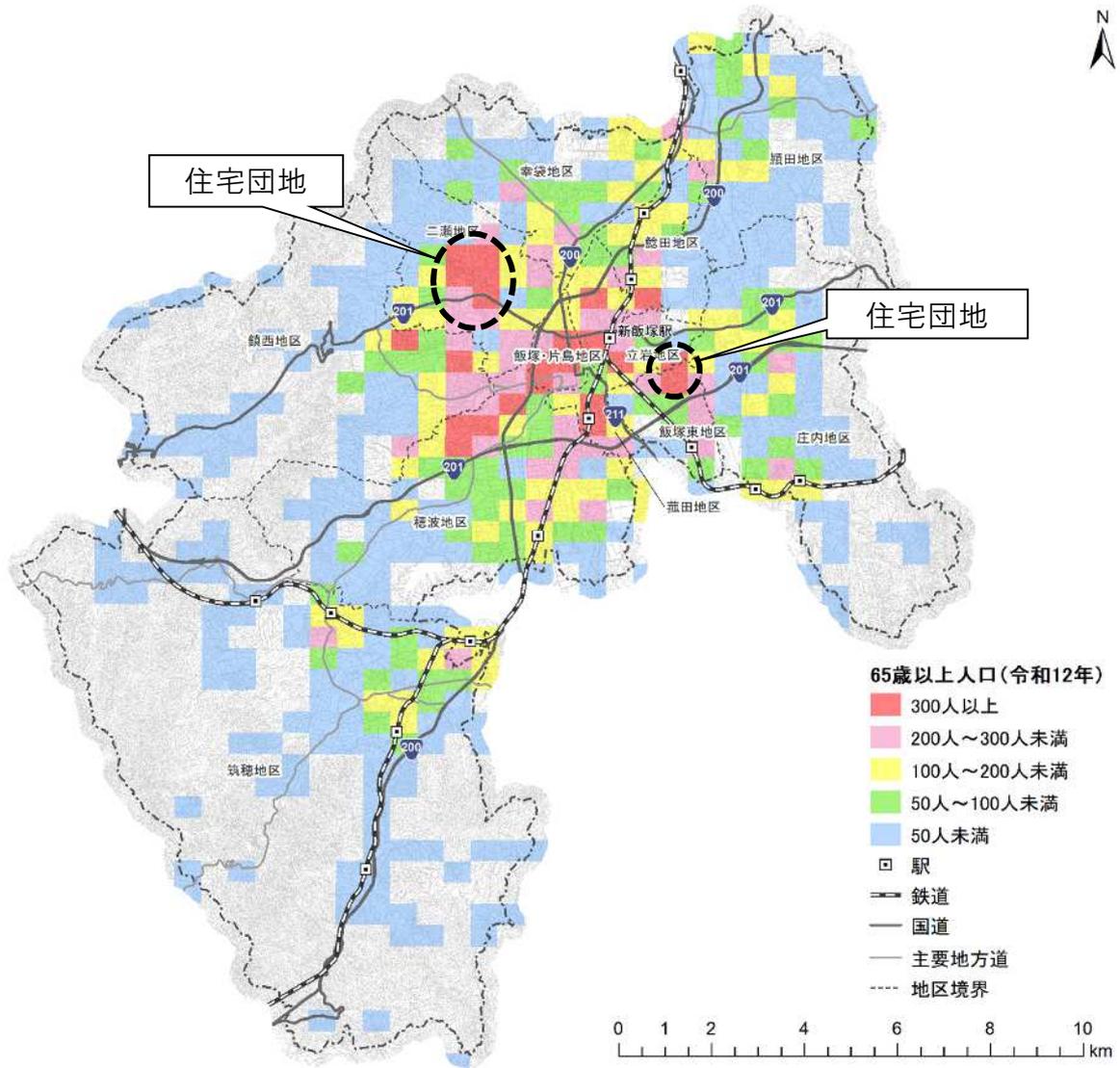


資料：国土数値情報

▲ 飯塚市 将来人口の分布（令和12年）

8) 高齢者将来人口

- 令和12年の高齢者将来人口は、総人口と同様に市内中心部のほか、住宅団地のある相田・伊岐須周辺や柏の森・下三緒周辺で人口集積がみられます。



資料：国土数値情報

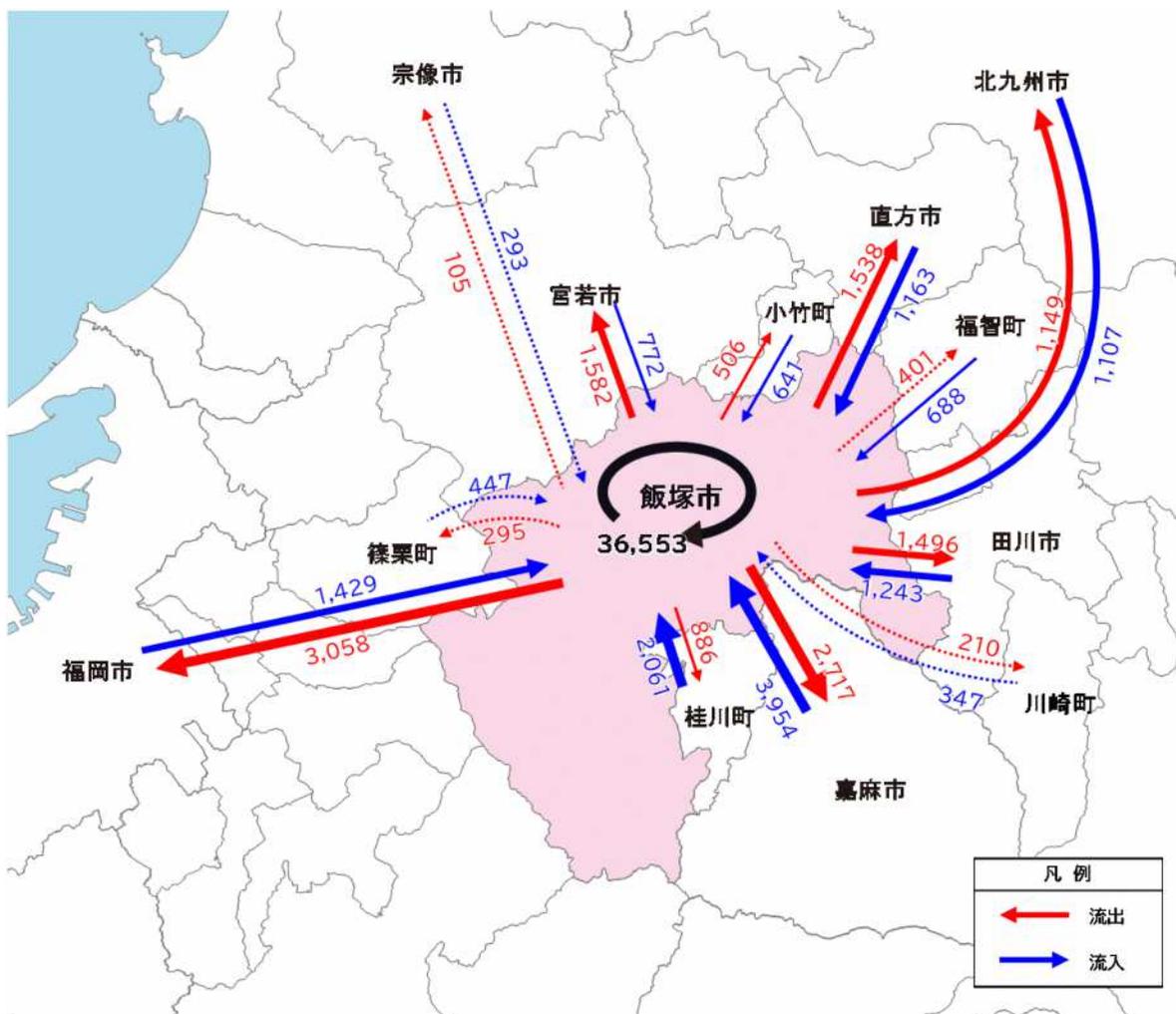
▲ 飯塚市 高齢者将来人口の分布（令和12年）

1-3 移動特性

1) 通勤の移動状況

- 飯塚市で就業する就業者数は約5.5万人で、そのうち、約3.7万人（約66%）が市内で就業しており、約1.7万人（約31%）が市外で就業しています。その主な市外就業先としては、福岡市が約3千人（約6%）、嘉麻市が2.7千人（約5%）となっています。
- 市外から飯塚市に通勤している人は、約1.8万人となっており、通勤では流出が約400人多くなっています。飯塚市に通勤している人の主な居住地は、嘉麻市が約4千人（飯塚市内の従業者の約7%）、桂川町が約2.1千人（同約4%）、福岡市で約1.4千人（同約3%）となっています。

	人数	(%)		人数	(%)
市内居住就業者	55,018	-	市内就業者	55,884	-
うち市内就業者	36,553	66.4	うち市内居住者	36,553	65.4
うち市外就業者	17,087	31.1	うち市外居住者	17,507	31.3
うち不詳	1,378	2.5	うち不詳	1,824	3.3

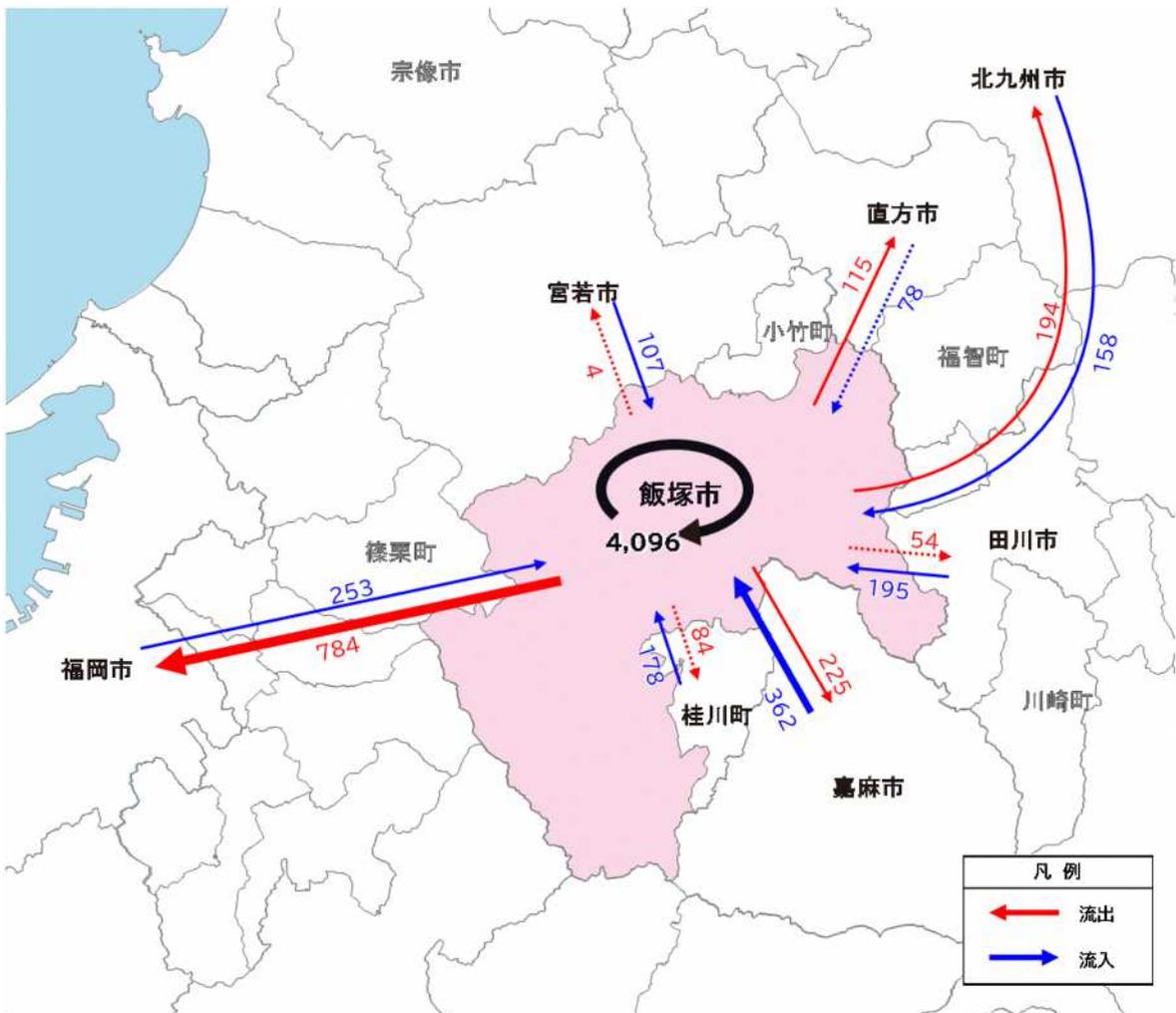


▲ 飯塚市と主な通勤先市町村との通勤流動

2) 通学の移動状況

- 飯塚市で居住する通学者数は約6千人で、そのうち、約4.1千人(約69%)が市内で通学しており、約1.7千人(約29%)が市外に通学しています。その主な市外通学先としては、福岡市が約780人(約13%)、嘉麻市が230人(約4%)となっています。
- 市外から飯塚市に通学している人は、約2.1千人となっており、通学では流入が約380人多くなっています。飯塚市に通学している人の主な居住地は、嘉麻市が約360人(飯塚市内の通学者の約6%)、福岡市が約250人(同約4%)となっています。

	人数	(%)		人数	(%)
市内居住通学者	5,981	-	市内通学者	6,398	-
うち市内通学者	4,096	68.5	うち市内居住者	4,096	64.0
うち市外通学者	1,723	28.8	うち市外居住者	2,100	32.8
うち不詳	162	2.7	うち不詳	202	3.2

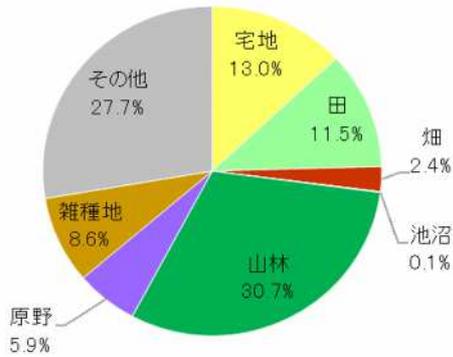


▲ 飯塚市と主な通学先市町村との通学流動

1-4 土地利用状況

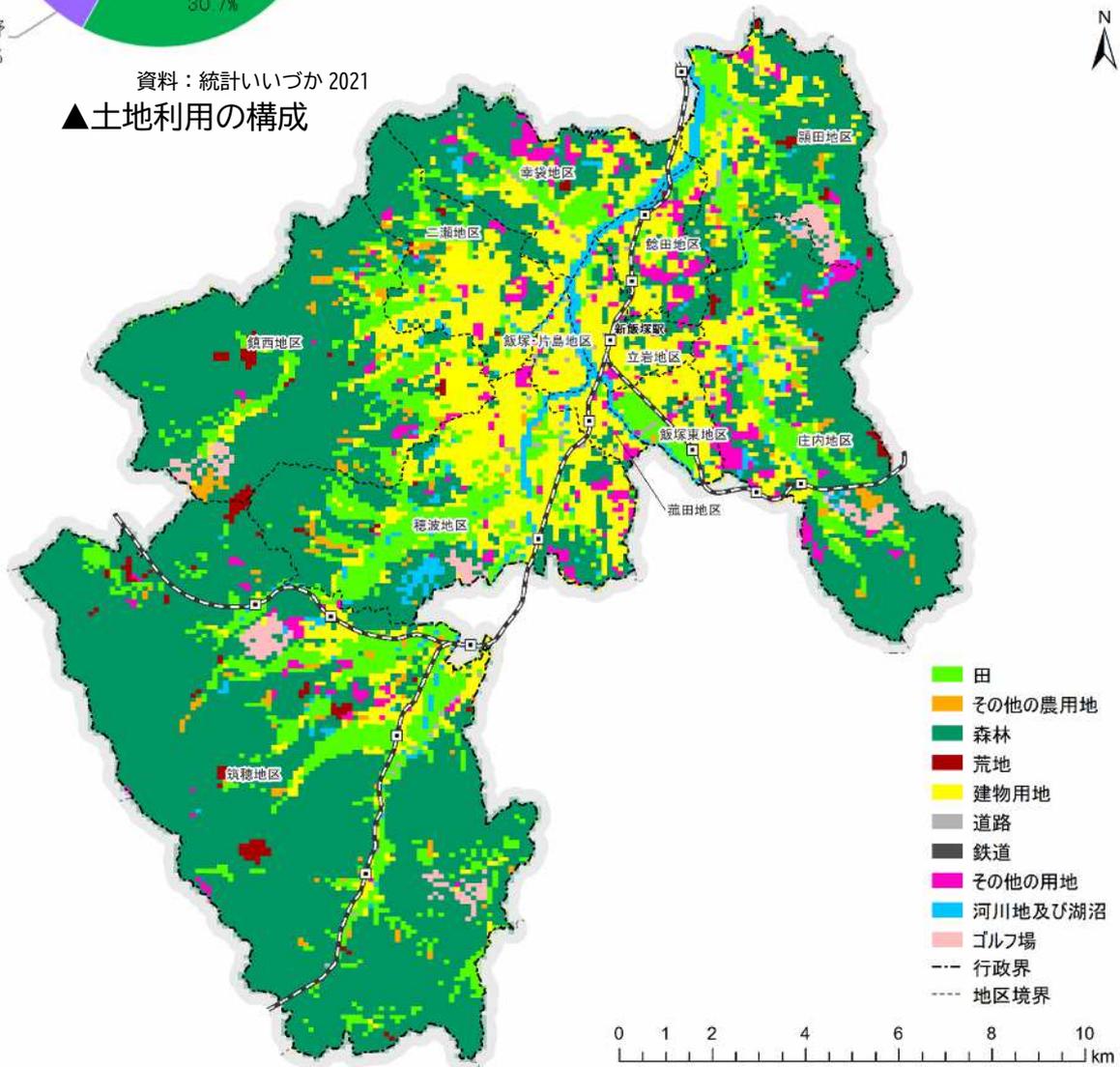
1) 土地利用現況

- 令和3年現在における本市の土地利用の構成は、総面積 213.96 km²のうち、宅地の割合が 13.0%、田・畑の割合が 13.9%、山林の割合が 30.7%となっています。



資料：統計いづか 2021

▲土地利用の構成



資料：国土数値情報（平成28年）

▲土地利用現況図

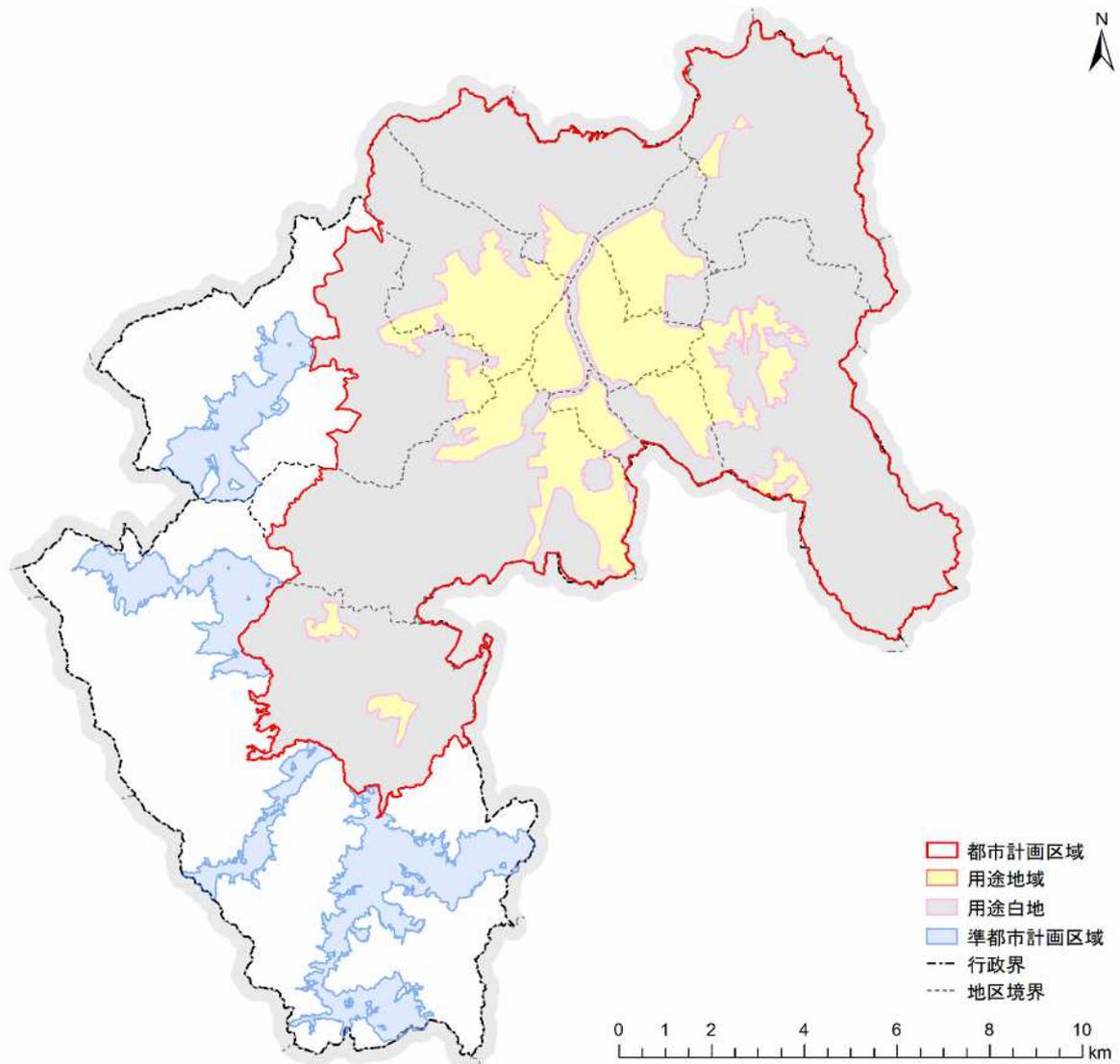
2) 都市計画区域

- 本市では、都市計画区域が 13,507ha（市域面積の約 63%）、準都市計画区域が 1,919ha（市域面積の約 9%）、用途地域が 3,053ha（市域面積の約 14%）指定されています。
- 都市計画区域内の土地利用状況は、農用地 17.7%、山林 34.1%、道路 7.7%、河川・水路 3.2%、宅地 18.4%、その他 18.9%となっています。

表 都市計画区域の土地利用区分と規模

市街地区分		合計	構成比	
自然的土地利用	小計	8,345.8	61.8	
	農地	小計	2,396.4	17.7
		田	1,913.8	14.2
		畑	482.6	3.6
	山林	4,599.8	34.1	
	水面	438.9	3.2	
	その他自然地	910.6	6.7	
都市的土地利用	小計	5,161.2	38.2	
	宅地	小計	2,489.0	18.4
		住宅用地	1,744.4	12.9
		商業用地	401.4	3.0
		工業用地	343.1	2.5
	農林漁業施設用地	40.0	0.3	
	公益施設用地	467.9	3.5	
	道路用地	1,043.7	7.7	
	交通施設用地	44.3	0.3	
	公共空地	283.8	2.1	
	その他公的施設用地	80.6	0.6	
	その他の空地	712.0	5.3	
	未利用宅地		0.0	
合計	13,507.0	100.0		

資料：R3 都市計画基礎調査



資料：令和3年度 都市計画基礎調査

▲ 飯塚市の都市計画区域

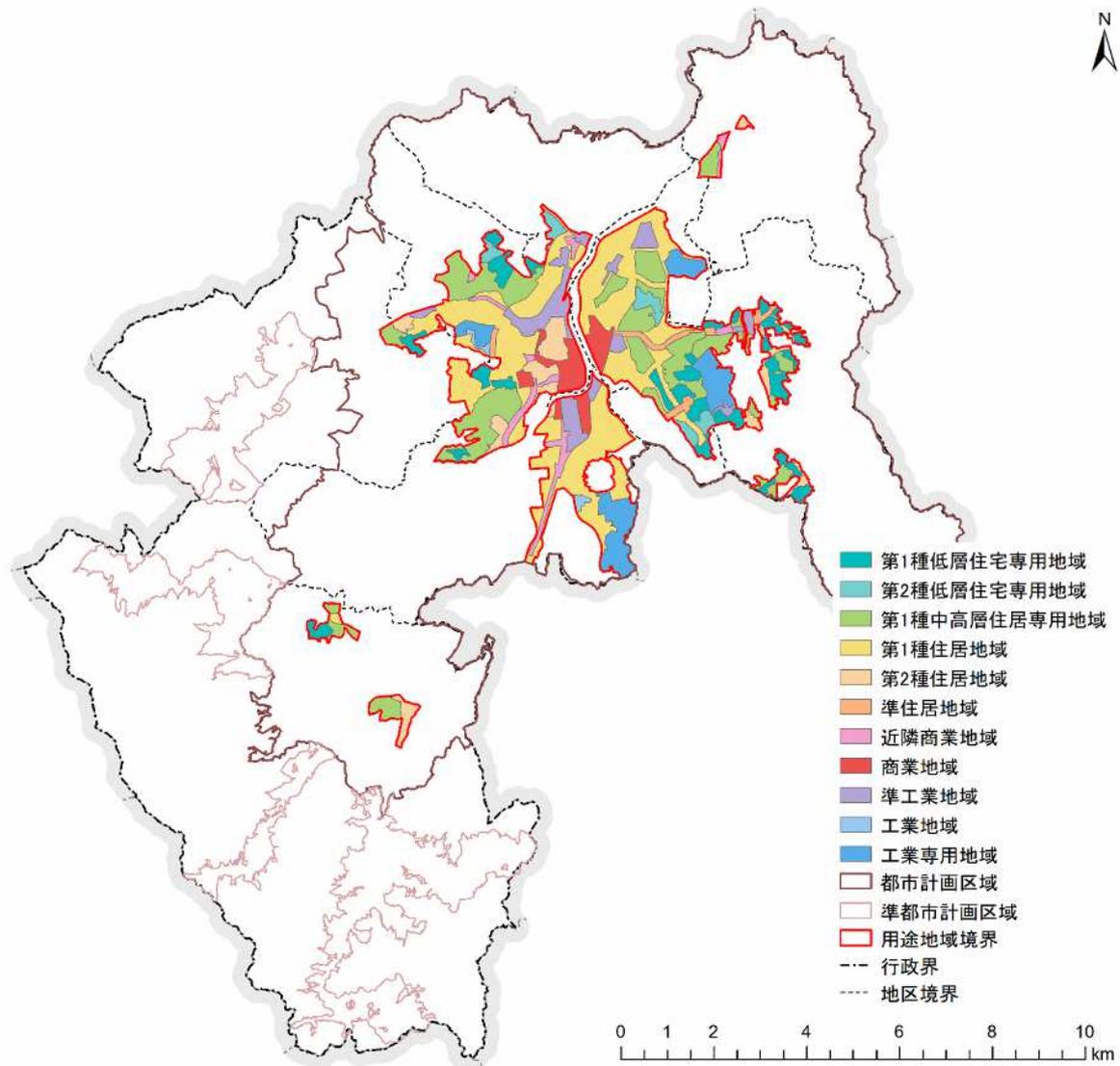
3) 用途地域

- 用途地域の総面積は3,053haとなっており、用途地域の構成は、住居専用地域と住居地域が77.4%、商業地域が7.8%、工業地域が14.7%となっています。

表 用途地域の区分と規模

区分	面積 (ha)	構成比 (%)
第1種低層住居専用地域	312	10.2
第2種低層住居専用地域	92	3.0
第1種中高層住居専用地域	601	19.7
第1種住居地域	1,114	36.5
第2種住居地域	187	6.1
準住居地域	58	1.9
近隣商業地域	98	3.2
商業地域	141	4.6
準工業地域	204	6.7
工業地域	16	0.5
工業専用地域	230	7.5
合計	3,053	100.0

資料：統計いづか 2021（令和3年3月31日時点）



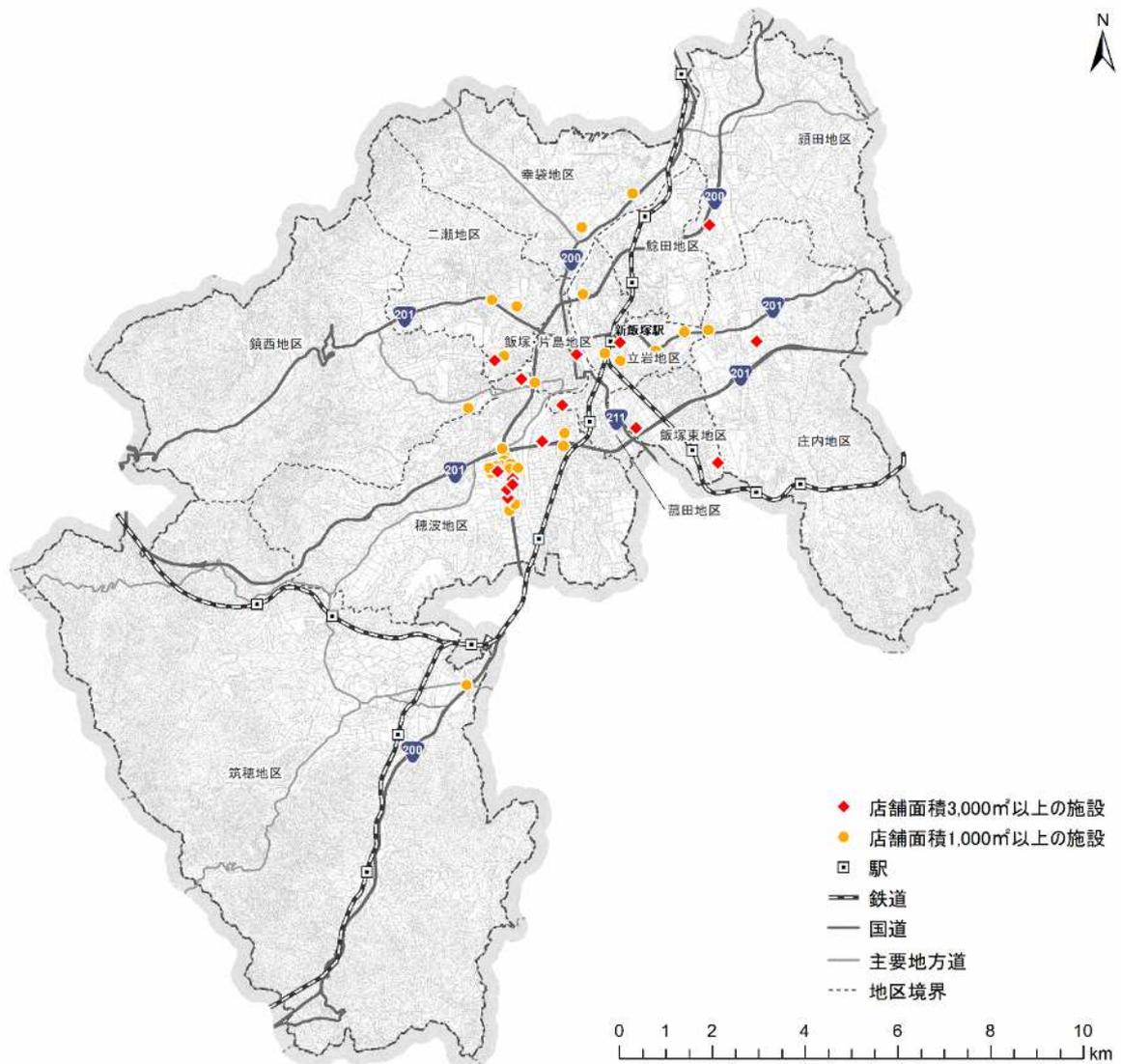
資料：令和3年度 都市計画基礎調査

▲ 飯塚市の用途地域

1-5 主要施設

1) 大型商業施設

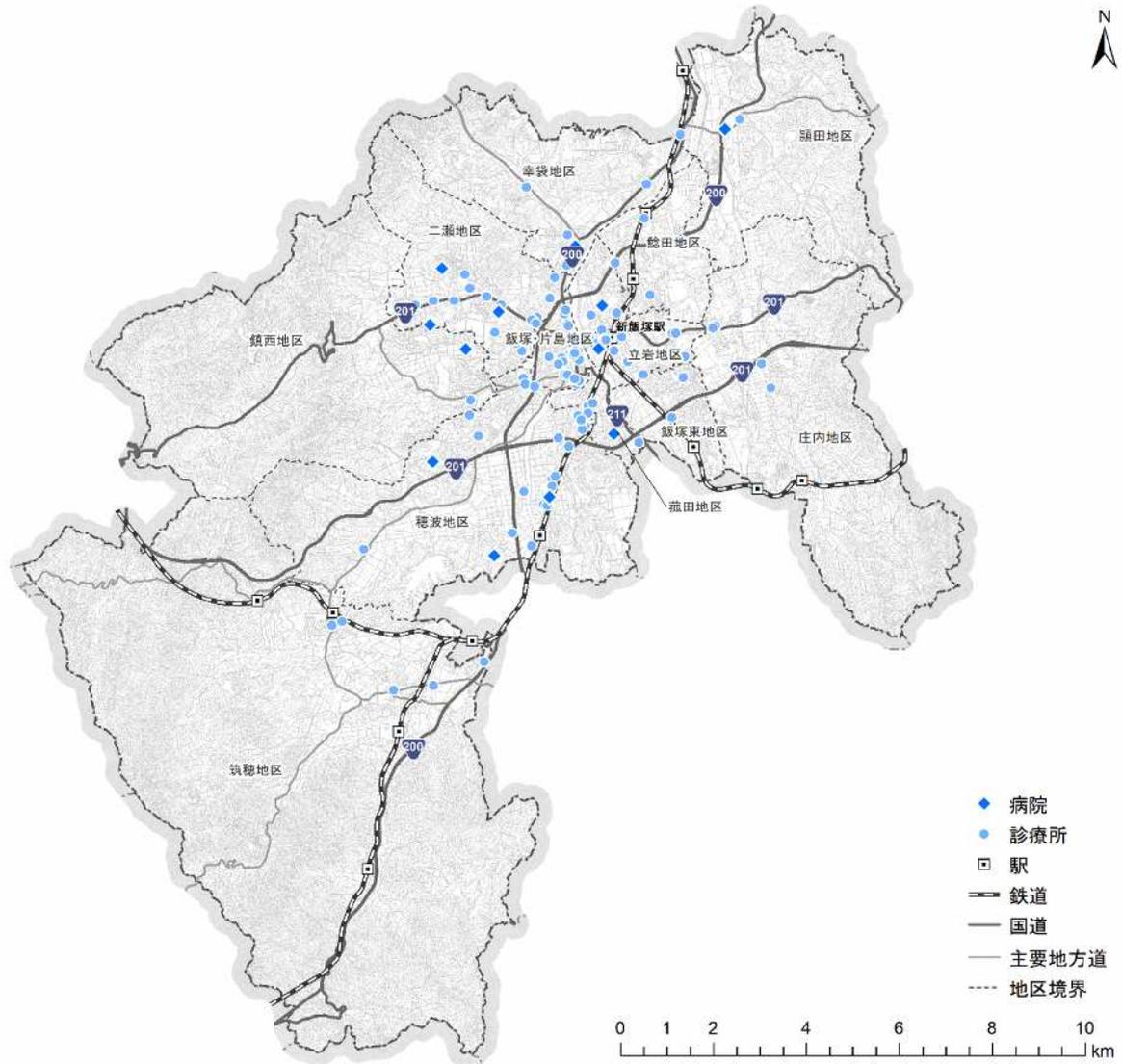
- 大型商業施設は、市内中心部のほか、国道 200 号や 201 号沿線に多く立地しています。
- 特に穂波地区の国道 200 号、201 号沿線には 10 店舗を超える集積がみられます。一方で、筑穂地区、鎮西地区などではほとんど立地がみられない状況となっています。
- また令和 5 年夏には、菰田地区の旧地方卸売市場跡地に複合型大型商業施設が開業予定となっています。



▲ 飯塚市の商業施設の分布

2) 医療施設

- 本市の医療施設は、鉄道沿線や国道 200 号、201 号沿線の人口の集積している地域に多く立地しており、市内には 12 件の病院が立地しています。

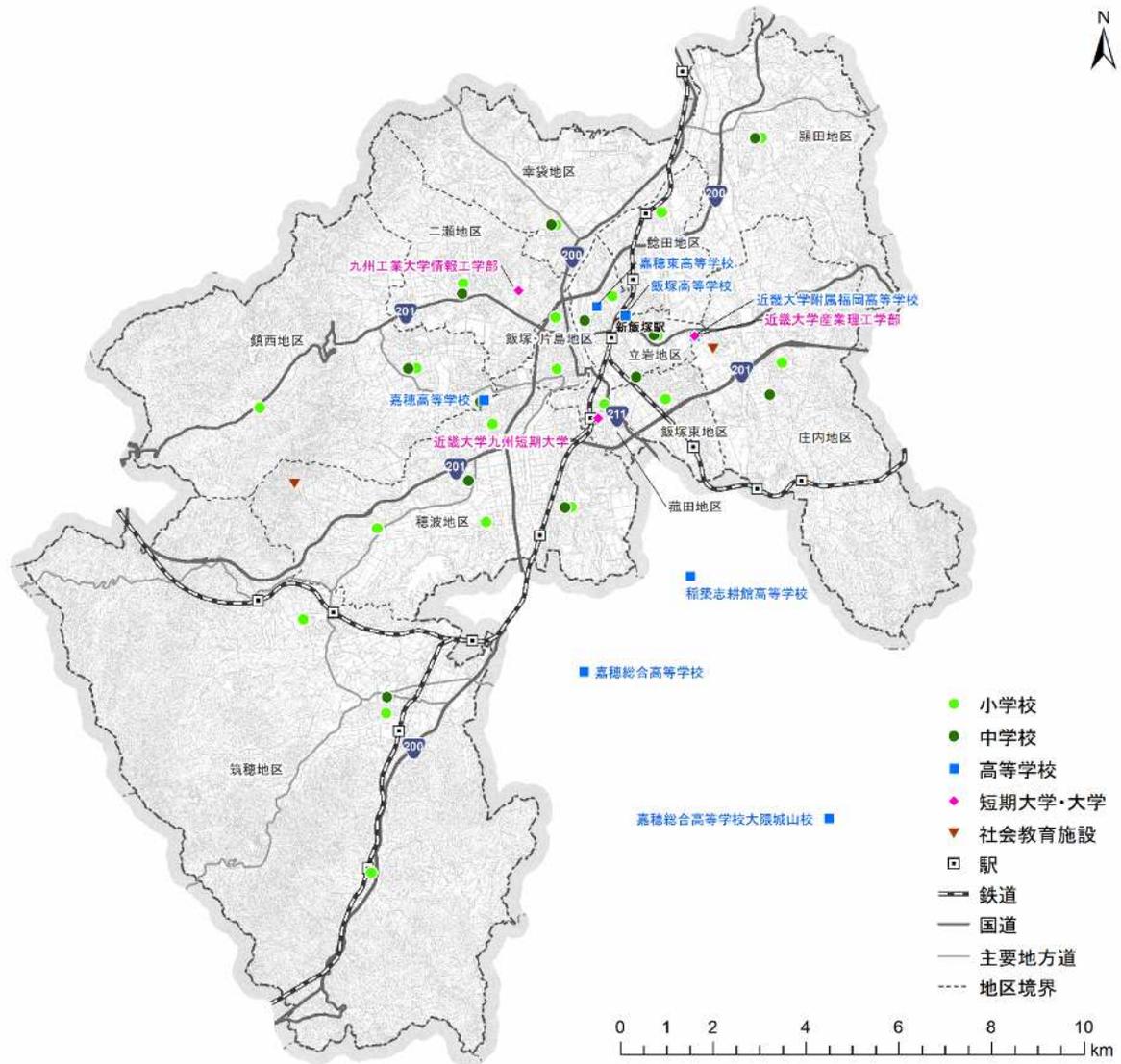


※ここでの病院は、入院病床が 20 床以上ある医療機関を示す

▲ 飯塚市の医療施設の分布

4) 教育施設

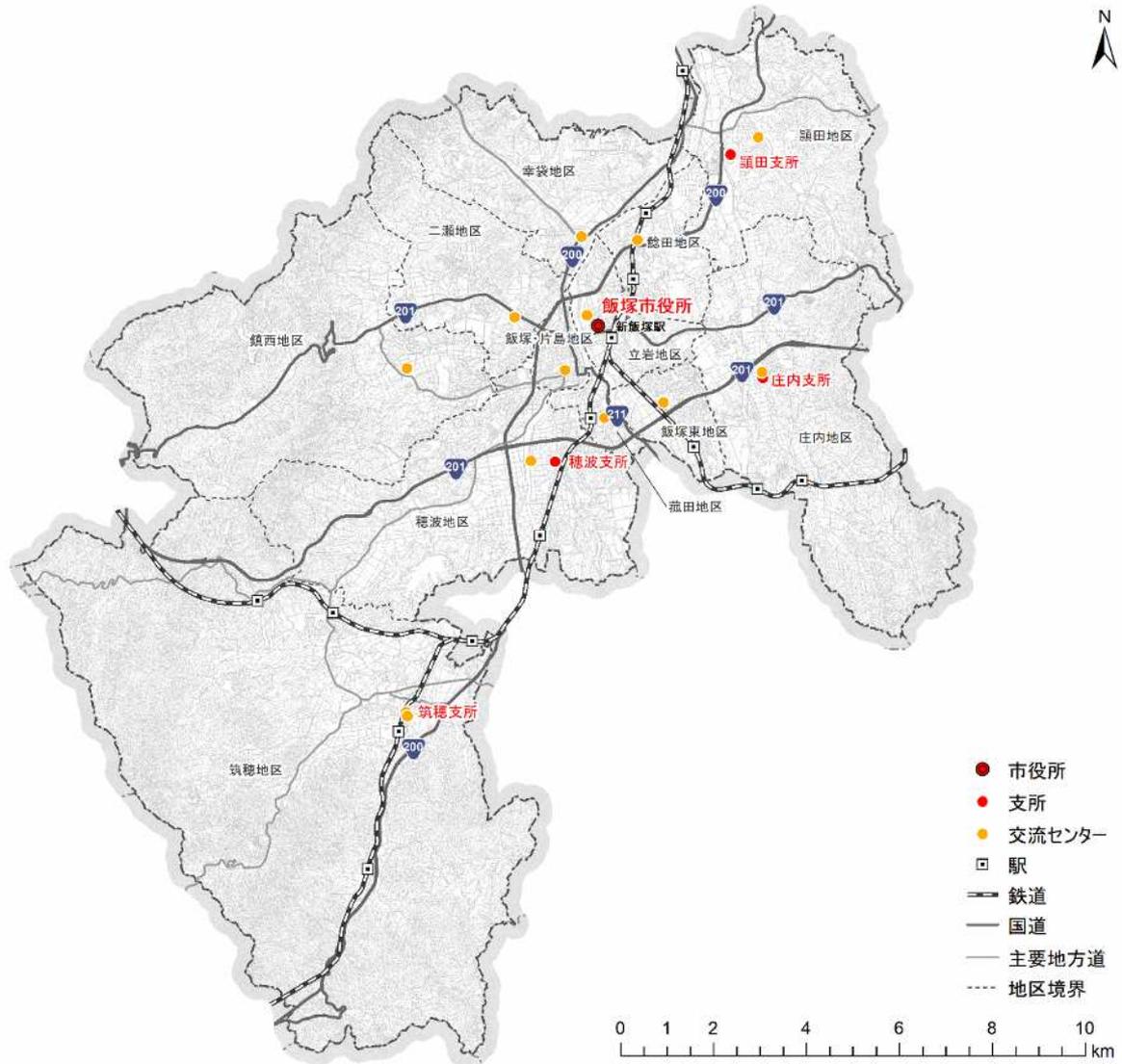
- 本市には、大学が九州工業大学・近畿大学・近畿大学九州短期大学の3校、高校が嘉穂高校・嘉穂東高校・飯塚高校・近畿大学附属福岡高校の4校が立地しています。
- また、市内には小学校が20校、中学校が12校（それぞれ小中一貫校を含む）立地しています。



▲ 飯塚市の教育施設の分布

5) 市行政施設及び交流センター

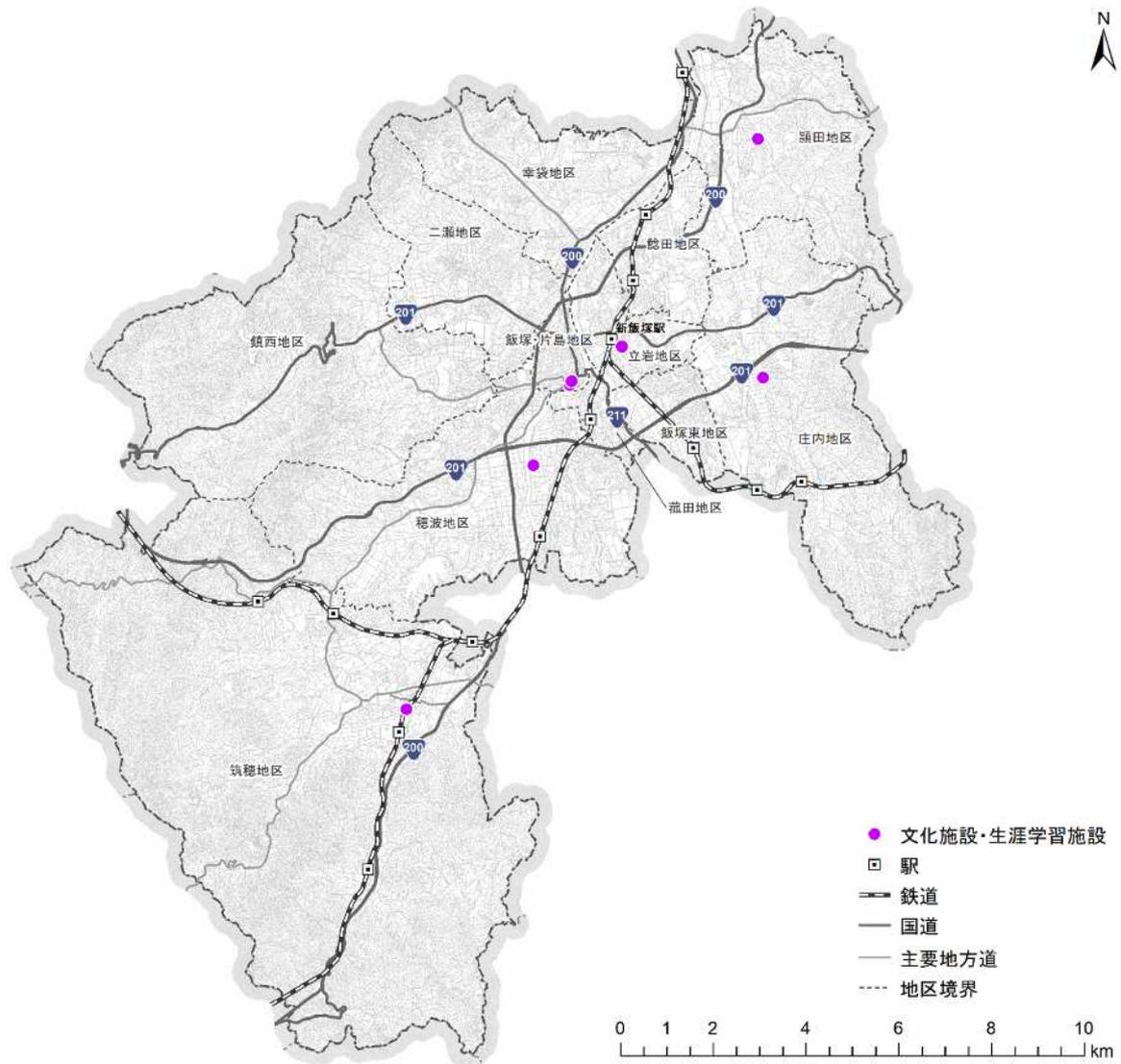
- 本市は、平成18年に旧1市4町が合併し誕生した経緯から、市役所のほかに旧4町の地区である穎田地区・庄内地区・穂波地区・筑穂地区に支所が設置されています。
- また、各地区には交流センターが設けられています。



▲ 飯塚市の行政施設及び交流センターの分布

6) 文化施設・生涯学習施設

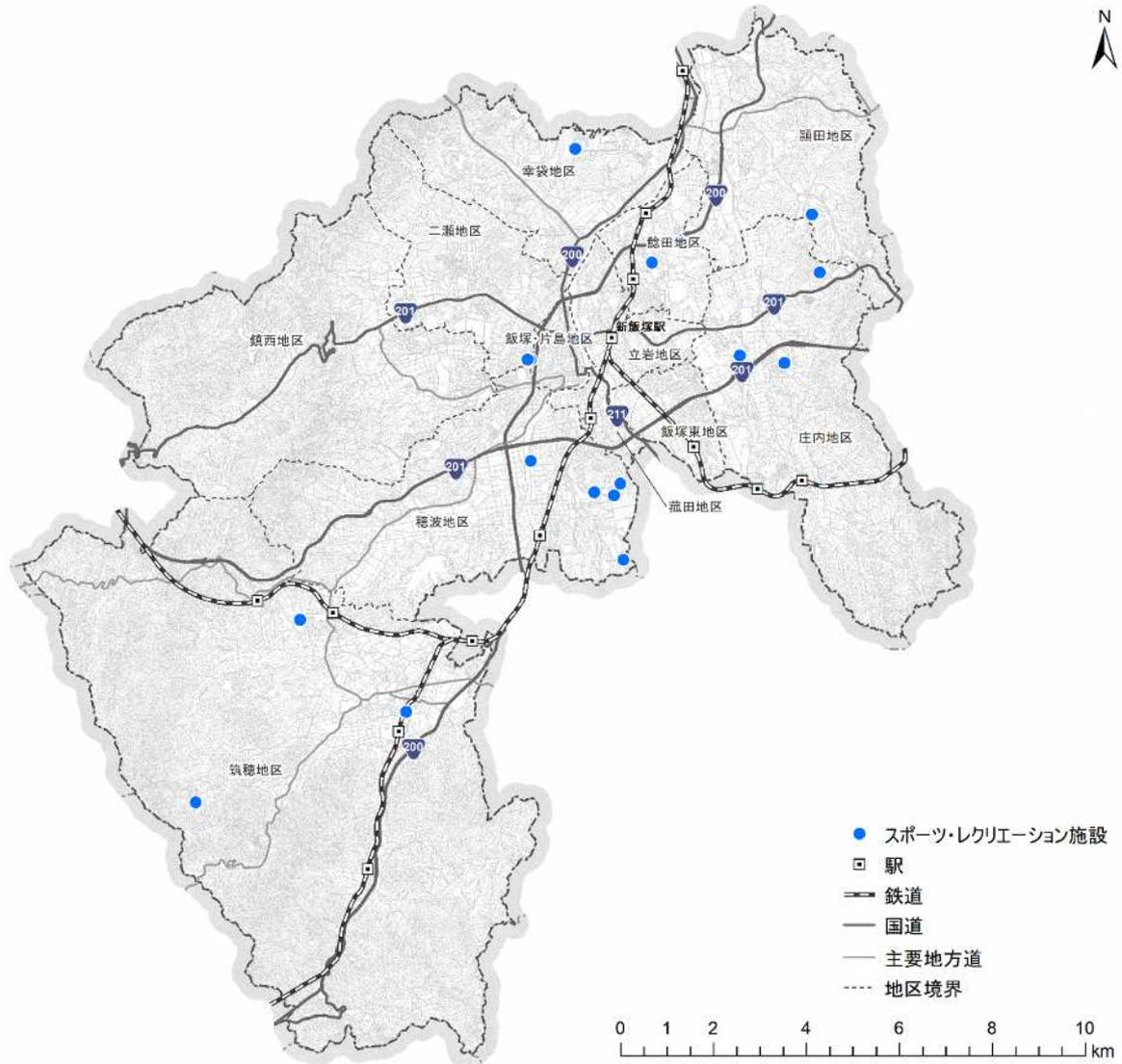
- 本市の文化施設・生涯学習施設は、飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）や飯塚市歴史資料館、イイツカコミュニティセンターなどが立地しているほか、穎田地区、庄内地区、飯塚・片島地区、穂波地区、筑穂地区には市立図書館が立地しています。



▲ 飯塚市の文化施設・生涯学習施設の分布

7) スポーツ・レクリエーション施設

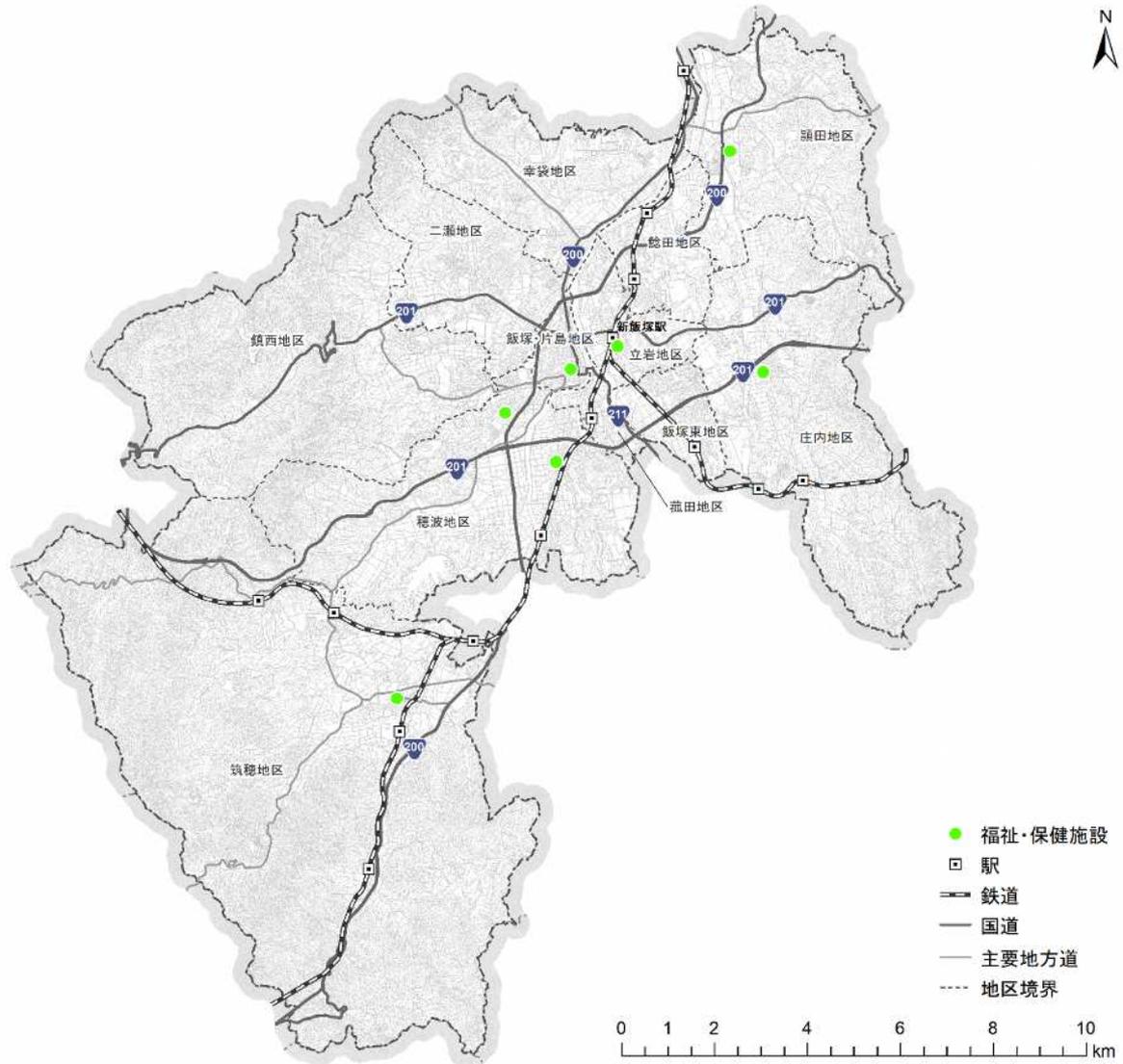
- 市内には、スポーツ・レクリエーション施設が点在しており、特に穂波地区では体育館や野球場、市民プールなどのスポーツ・レクリエーション施設が10施設立地しています。



▲ 飯塚市のスポーツ・レクリエーション施設の分布

8) 福祉・保健施設等

- 市内には、健幸プラザや飯塚市保健センター、サン・アビリティーズいづかのほか、保健福祉総合センターや高齢者福祉施設など合計7施設が立地しています。

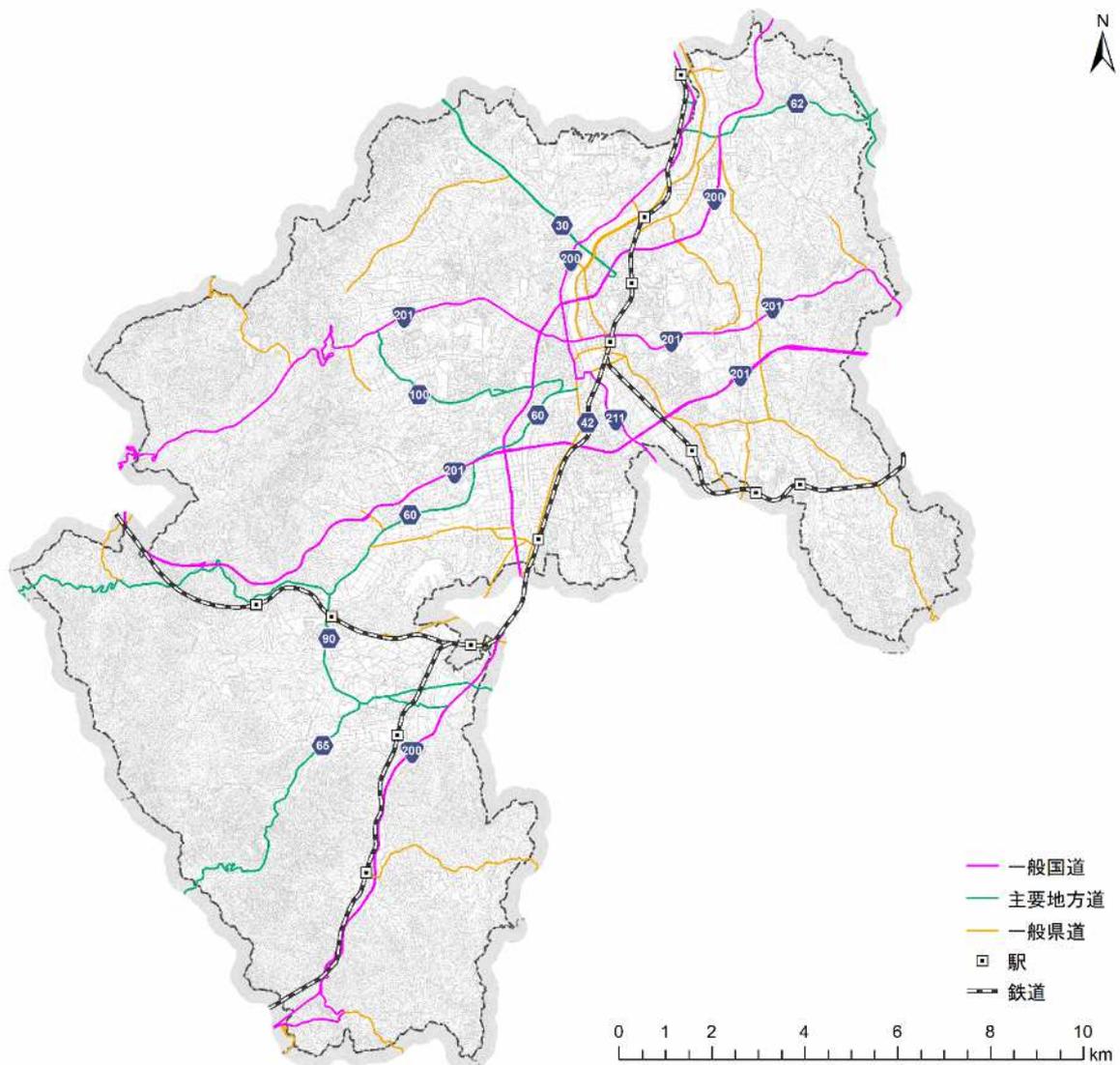


▲ 飯塚市の福祉・保健施設の分布

1-6 道路ネットワーク

1) 主要道路網

- 本市には、東西方向に国道 201 号、国道 201 号バイパスが、南北方向に国道 200 号、国道 200 号バイパス、国道 211 号が通過しており、それらの国道を骨格として市域の道路網が形成されています。
- また、福岡都市圏と本市を結ぶ重要な路線である八木山バイパスでは 4 車線化に向けた工事が進められており、篠栗 IC から筑穂 IC 間は令和 6 年度、筑穂 IC から穂波東 IC 間は令和 11 年度に開通予定となっています。

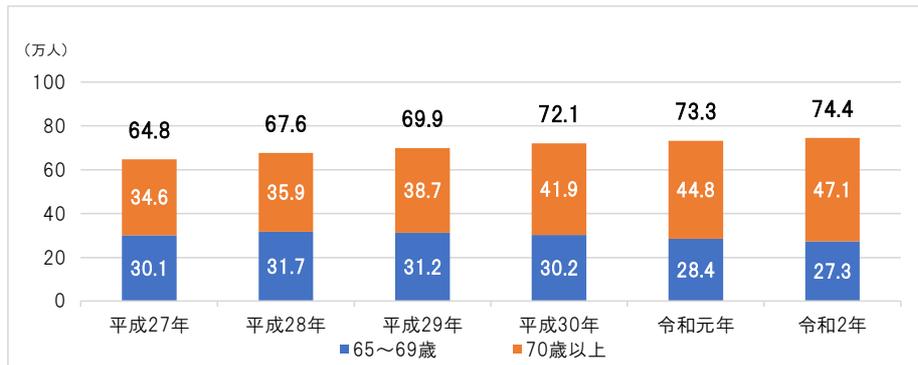


▲ 飯塚市の道路ネットワーク

1-7 運転免許保有状況及び交通事故状況

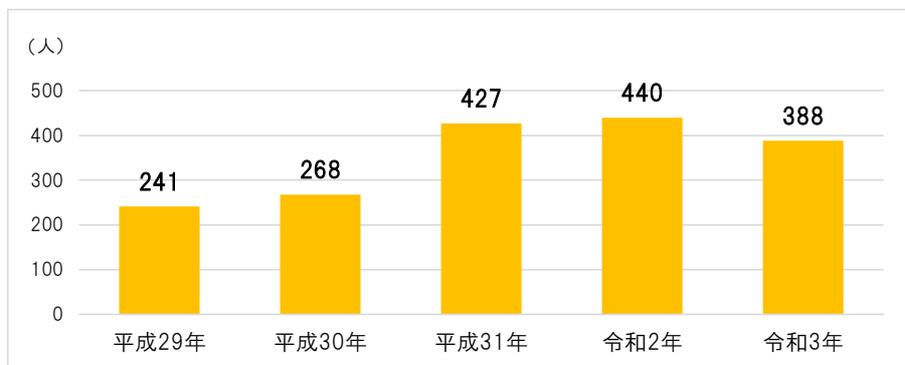
1) 高齢者の運転免許保有状況

- 福岡県の65歳以上の運転免許保有者数は増加傾向にあり、平成30年には70万人を超えており、令和2年には74.4万人となっています。
- 飯塚市の65歳以上の高齢者運転免許証自主返納者数は平成29年から令和2年までは増加傾向にありましたが、令和3年は減少に転じています。



資料：福岡県警察本部 交通年鑑

▲ 福岡県の65歳以上 運転免許保有者数



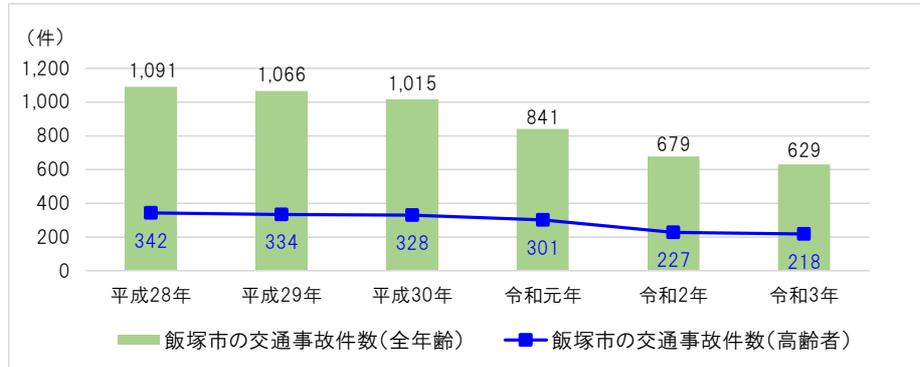
※免許証自主返納者の内、飯塚市高齢介護課へ支援事業を申請した人数

資料：飯塚市提供資料

▲ 高齢者運転免許証自主返納者数

2) 高齢者の交通事故

- 飯塚市内の交通事故件数の推移をみると、平成28年以降減少傾向にあります。
- 65歳以上の高齢者の事故件数も平成28年以降減少傾向にありますが、交通事故件数全体に占める65歳以上の事故の割合は増加傾向にあり、令和3年では629件中218件（約35%）となっています。



※集計期間：各年1月～12月

資料：福岡県警察本部「あなたの町の交通事故」

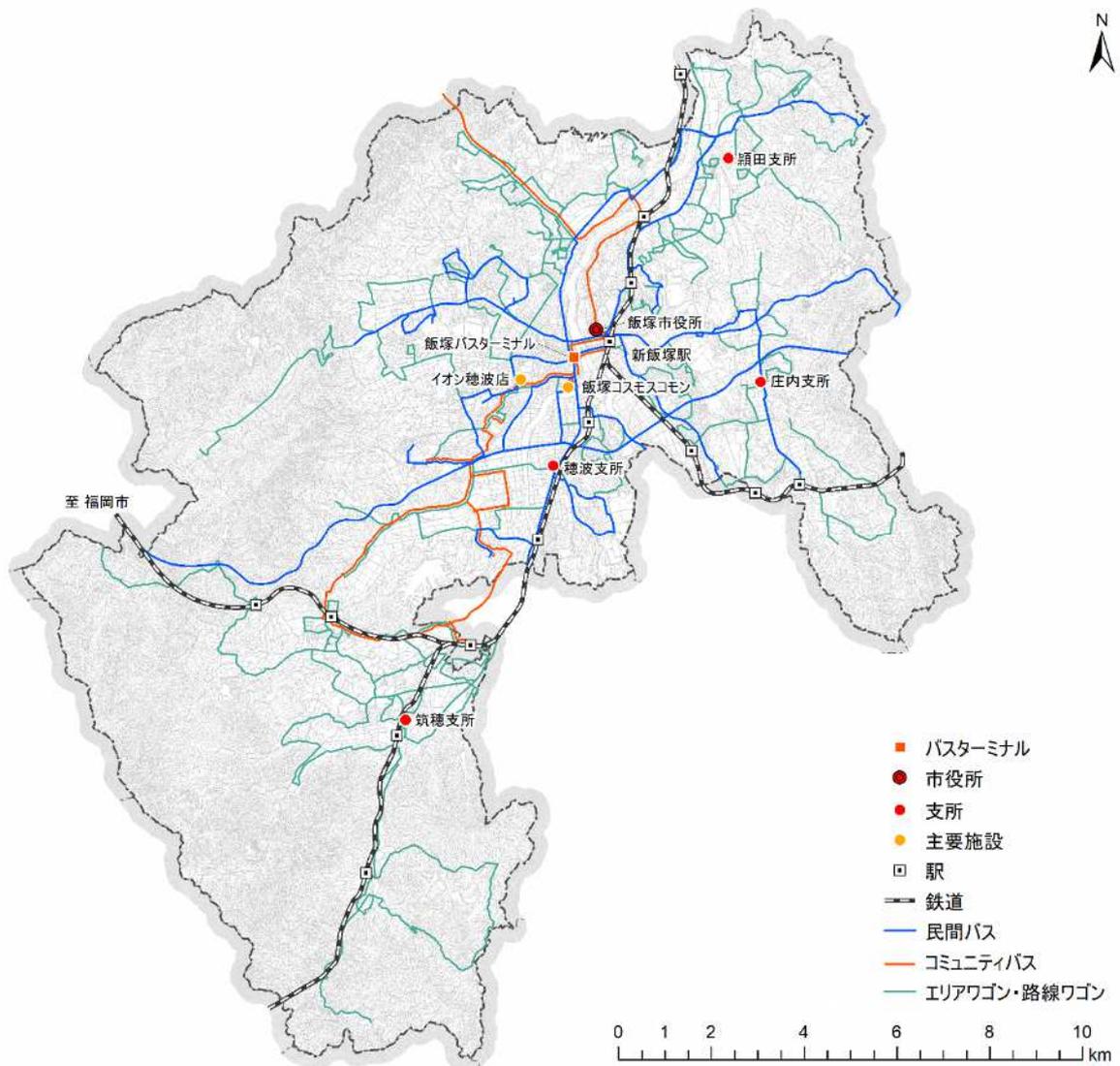
▲ 飯塚市の交通事故発生件数

2 飯塚市の公共交通の現状

飯塚市内の地域公共交通における課題を把握するために、各種データ（地域公共交通の状況、利用状況、財政状況など）を収集・整理しました。

2-1 飯塚市の公共交通ネットワーク

- 飯塚市と福岡都市圏及び北九州都市圏を結ぶJRの福北ゆたか線（篠栗線と筑豊本線の桂川駅以北を合わせた愛称）を軸に、新飯塚駅と田川市の田川後藤寺駅を結ぶ後藤寺線、桂川駅と筑紫野市の原田駅を結ぶ原田線（筑豊本線の桂川駅以南における愛称）の鉄道網が構築されており、市内には計11の駅が設置されています。



※令和4年9月1日現在

▲ 飯塚市の公共交通ネットワーク

2-2 飯塚市のコミュニティ交通の概要

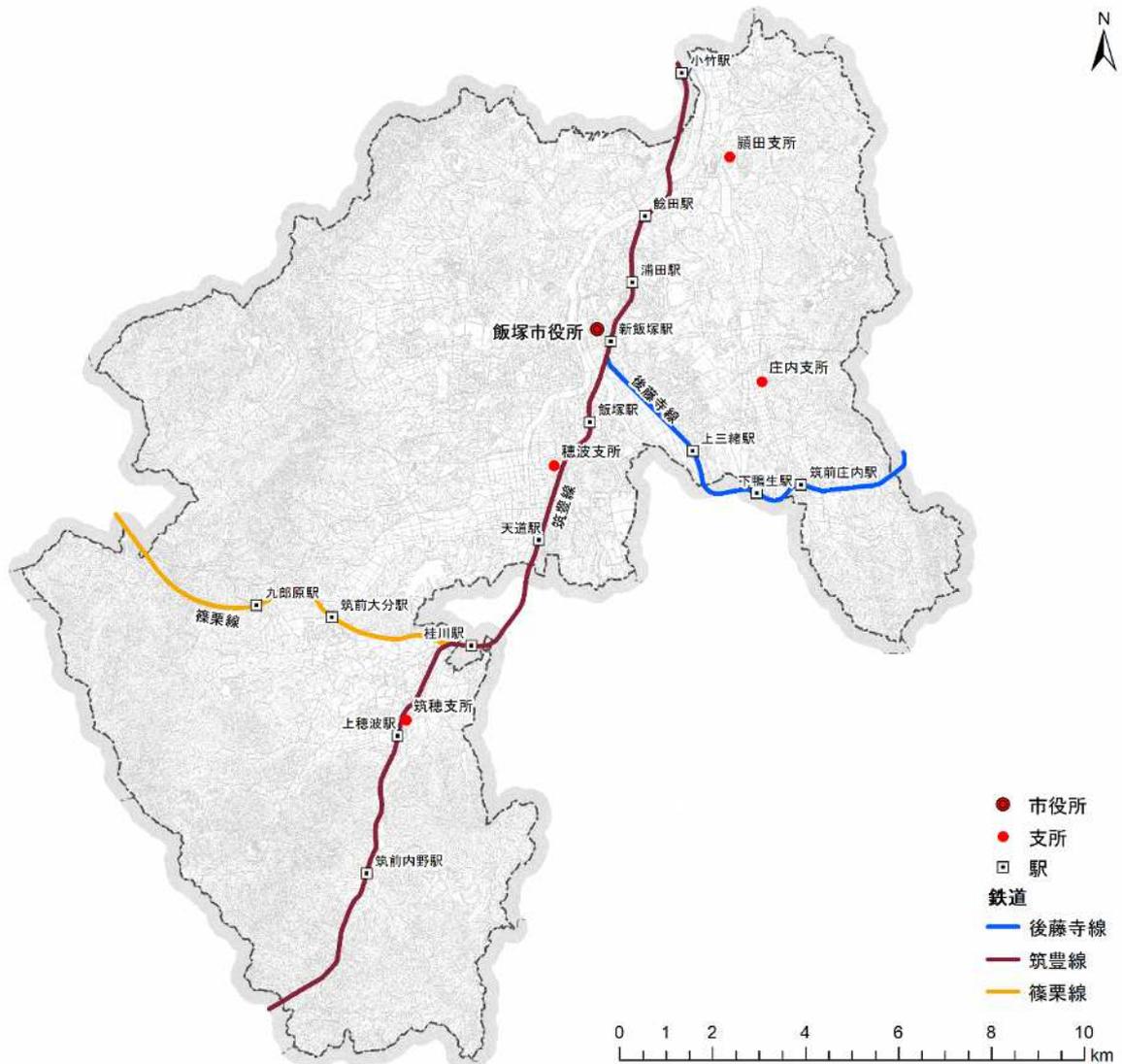
飯塚市コミュニティ交通の沿革

平成 18 年（2006 年）3 月	1 市 4 町が合併し、新市制の現飯塚市が発足。旧 4 町のコミュニティ交通の運行を引き継ぐ。
平成 20 年（2008 年）	「飯塚市地域公共交通総合連携計画」を策定する。
平成 21 年（2009 年）4 月	旧 4 町のコミュニティ交通を見直し、定時定路線型のコミュニティバスの実証運行を開始する。 (11 路線、運賃 100 円均一)
平成 22 年（2010 年）4 月	コミュニティバスの運行を 11 路線から 13 路線に拡大
平成 23 年（2011 年）	「飯塚市生活交通ネットワーク計画」を策定する。
平成 24 年（2012 年）4 月	コミュニティバスの運行を 13 路線から 3 路線に再編 (3 路線、運賃 200 円均一) デマンド型予約 乗合タクシーの運行を開始する。 (9 地区 1 1 台体制、運賃 300 円均一)
平成 26 年（2014 年）	「飯塚市地域公共交通網形成計画」を策定する。
平成 27 年（2015 年）4 月	コミュニティバス及び予約乗合タクシーに加え、中心市街地において街なか循環バスの実証運行を開始する（3 年間）。 (3 系統、運賃 100 円均一)
平成 30 年（2018 年）3 月	「第 2 次飯塚市地域公共交通網形成計画」を策定する。
平成 30 年（2018 年）4 月	コミュニティバスと街なか循環バスを統合し、コミュニティバス 4 路線体制による運行とする。
令和元年（2019 年）10 月	JR 九州バス（直方線）の一部区間廃止に伴い、宮若市と共同でコミュニティバス宮若・飯塚線の運行を開始
令和 2 年（2020 年）10 月	西鉄バスの一部区間廃止に伴い、同区間で路線ワゴンの運行を開始（3 地区、運賃 200 円均一）するとともに、コミュニティバス宮若・飯塚線の運行ルートの一部変更。
令和 4 年（2022 年）4 月	地区内定時定路線型のエリアワゴンの運行開始（10 地区、運賃 100 円均一）。コミュニティバス 4 路線を 1 路線に統廃合。

2-3 飯塚市の地域公共交通の概要

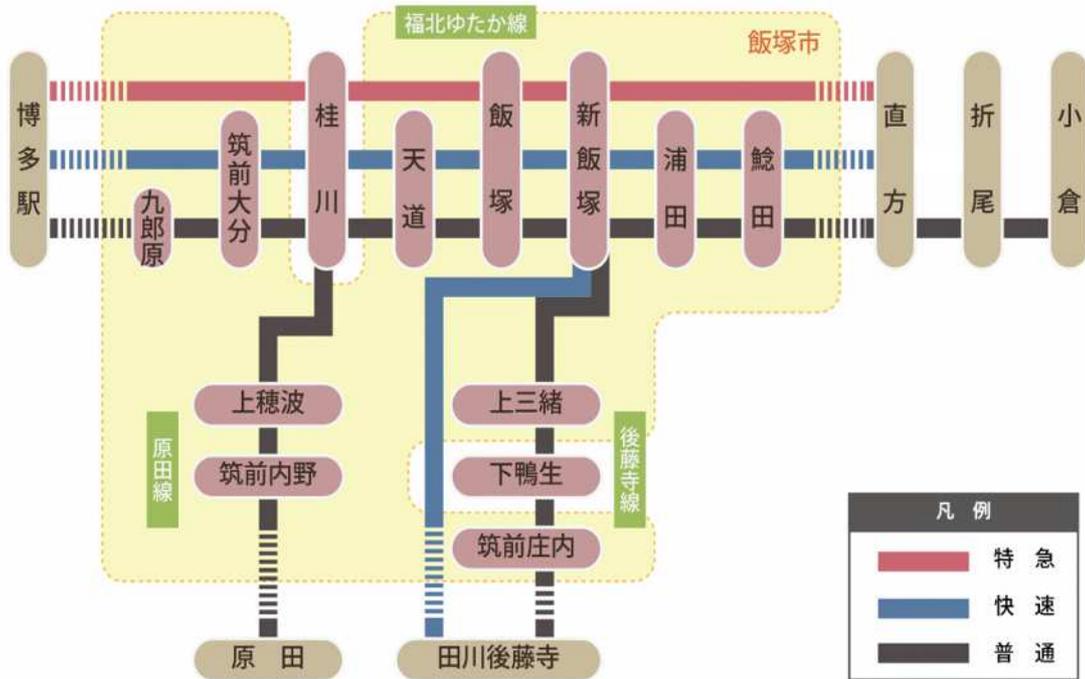
1) 鉄道の運行状況

- 飯塚市と福岡都市圏及び北九州都市圏を結ぶJRの福北ゆたか線（篠栗線と筑豊本線の桂川駅以北を合わせた愛称）を軸に、新飯塚駅と田川市の田川後藤寺駅を結ぶ後藤寺線、桂川駅と筑紫野市の原田駅を結ぶ原田線（筑豊本線の桂川駅以南における愛称）の鉄道網が構築されており、市内には計11の駅が設置されています。



※令和4年9月1日現在

▲ 鉄道路線図



▲ 飯塚市内の鉄道駅と路線図

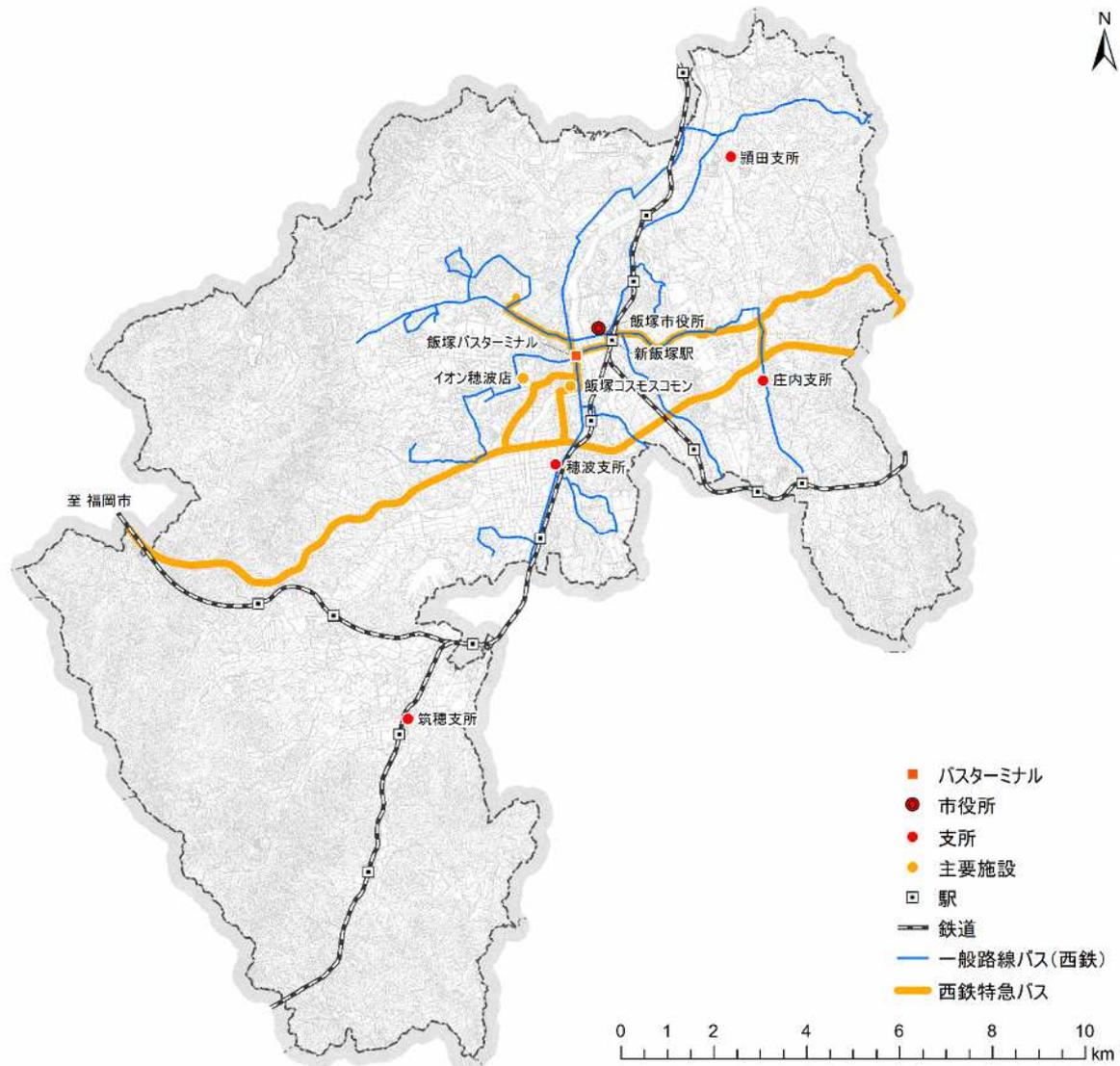
JR 運行本数

令和4年9月26日現在

路線名	方面	運行本数			運行時刻		基準駅
		平日	土曜	日曜	始発	終発	
JR福北ゆたか線	上り(直方方面)	51	52	50	5:02	0:09	新飯塚駅
	下り(博多方面)	56	56	55	5:27	22:58	新飯塚駅
JR後藤寺線	上り(新飯塚方面)	23	23	23	5:41	22:00	田川後藤寺駅
	下り(田川後藤寺方面)	23	23	23	6:15	22:44	新飯塚駅
JR原田線	上り(桂川方面)	8	9	9	6:59	21:40	原田駅
	下り(原田方面)	8	9	9	6:20	21:02	桂川駅

2) 民間路線バスの運行状況

- 飯塚市を運行する一般路線の民間路線バス事業者は2社ありましたが、そのうち飯塚市と宮若市とを結んでいたJR九州バスが令和元年9月末をもって撤退したため、現在では西鉄バス筑豊のみとなっています。
- 西鉄バスは全ての便が飯塚バスターミナルまたはあいタウンに乗り入れています。
- 西鉄特急バスは福岡市や田川市などと、一般路線バスは嘉麻市や桂川町などを結ぶ路線もあり、隣接市町との都市間移動の役割を果たしています。



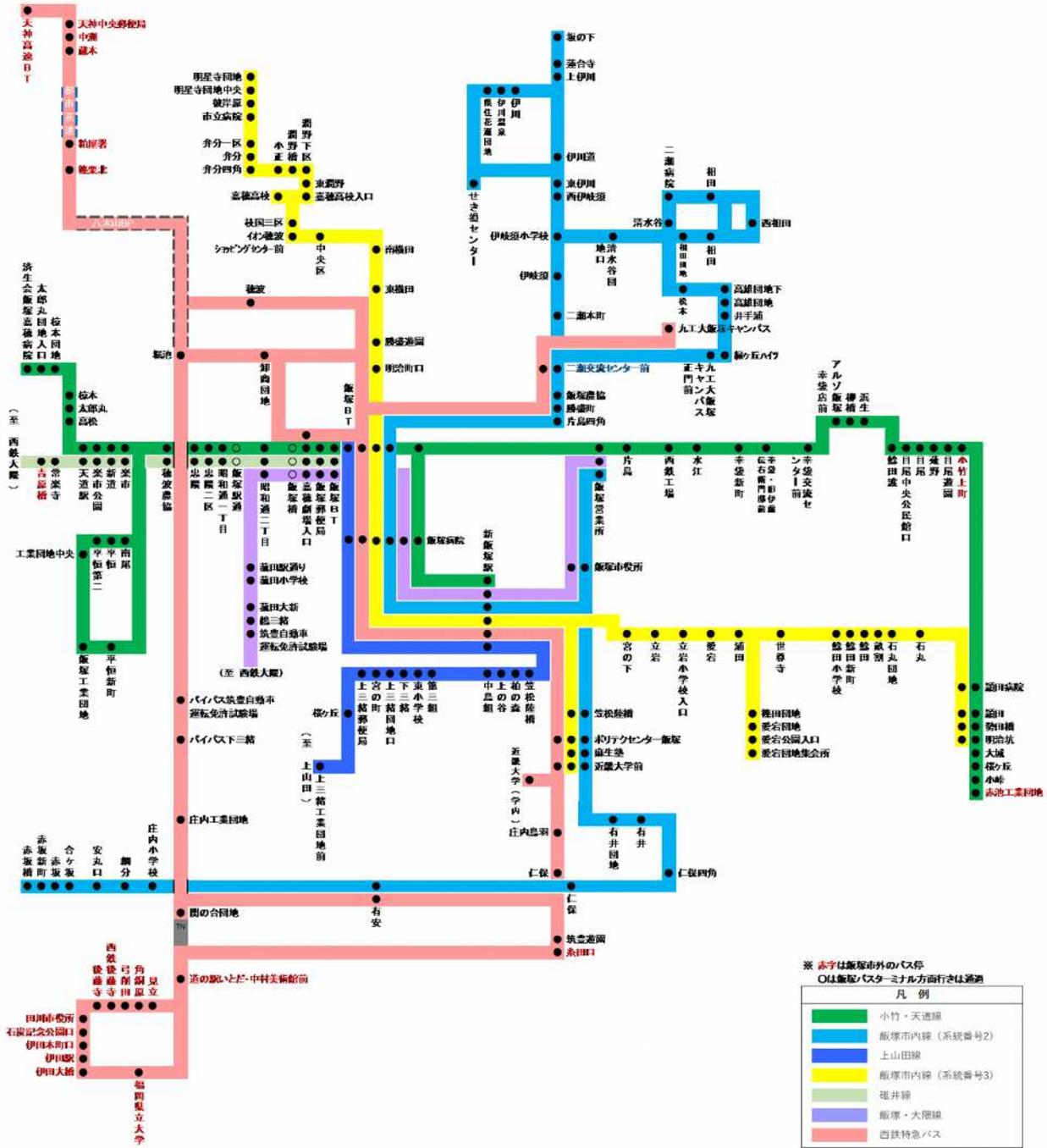
資料：西鉄ホームページ
 ※令和4年9月1日現在

▲ 民間バス路線図

西鉄バス筑豊運行本数（飯塚バスターミナル及び飯塚・あいタウン前発）

令和4年9月1日現在

路線名	系統番号	行先	運行本数			関係周辺市町
			平日	土曜	日祝	
小竹・天道線	1	赤池工業団地	13	13	6	福智町
	1	新飯塚駅	13	13	6	
	21	済生会飯塚嘉穂病院	5	5	0	
		飯塚工業団地	4	4	0	
飯塚市内線	2	坂の下	11	12	10	-
		西相田(伊岐須経由)	3	2	2	
		西相田(九工大経由)	14	13	12	
		伊川温泉	2	4	2	
	2	赤坂橋	6	5	5	
		近畿大学	3	0	0	
		新飯塚駅	0	4	2	
		西鉄飯塚営業所	14	9	8	
	3	明星寺団地(快速・嘉穂高校経由)	6	0	0	
		明星寺団地(普通・嘉穂高校経由)	1	0	0	
		明星寺団地(普通・嘉穂高校非経由)	22	24	24	
		嘉穂高校(快速)	1	0	0	
	3	明治坑	13	13	13	
		愛宕団地	14	13	11	
		近畿大学	5	0	0	
		新飯塚駅	2	0	0	
飯塚・大隈線	12	西鉄大隈(稲築才田経由)	2	1	0	嘉麻市
		西鉄大隈(稲築才田非経由)	24	17	15	
		稲築才田	1	0	0	
	12	西鉄飯塚営業所	9	2	2	
上山田線	23	上山田(山野社宅経由)	2	0	0	嘉麻市
		上山田(山野社宅非経由)	8	6	7	
		山野社宅	9	9	8	
碓井線	27	西鉄大隈(嘉穂総合高校経由)	3	3	2	嘉麻市・桂川町
		西鉄大隈(嘉穂総合高校非経由)	5	5	6	
筑豊(特急)福岡線	-	天神(穂波経由)	36	33	33	田川市 篠栗町 ほか
		天神(堀池経由)	39	35	35	
		香春町役場	8	7	7	
	-	福岡県立大学	7	6	6	
		西鉄後藤寺(烏尾トンネル経由)	22	25	25	
		西鉄後藤寺(糸田口経由)	7	7	7	
		近畿大学	2	0	0	
		新飯塚駅	25	23	23	
		合計	361	313	277	

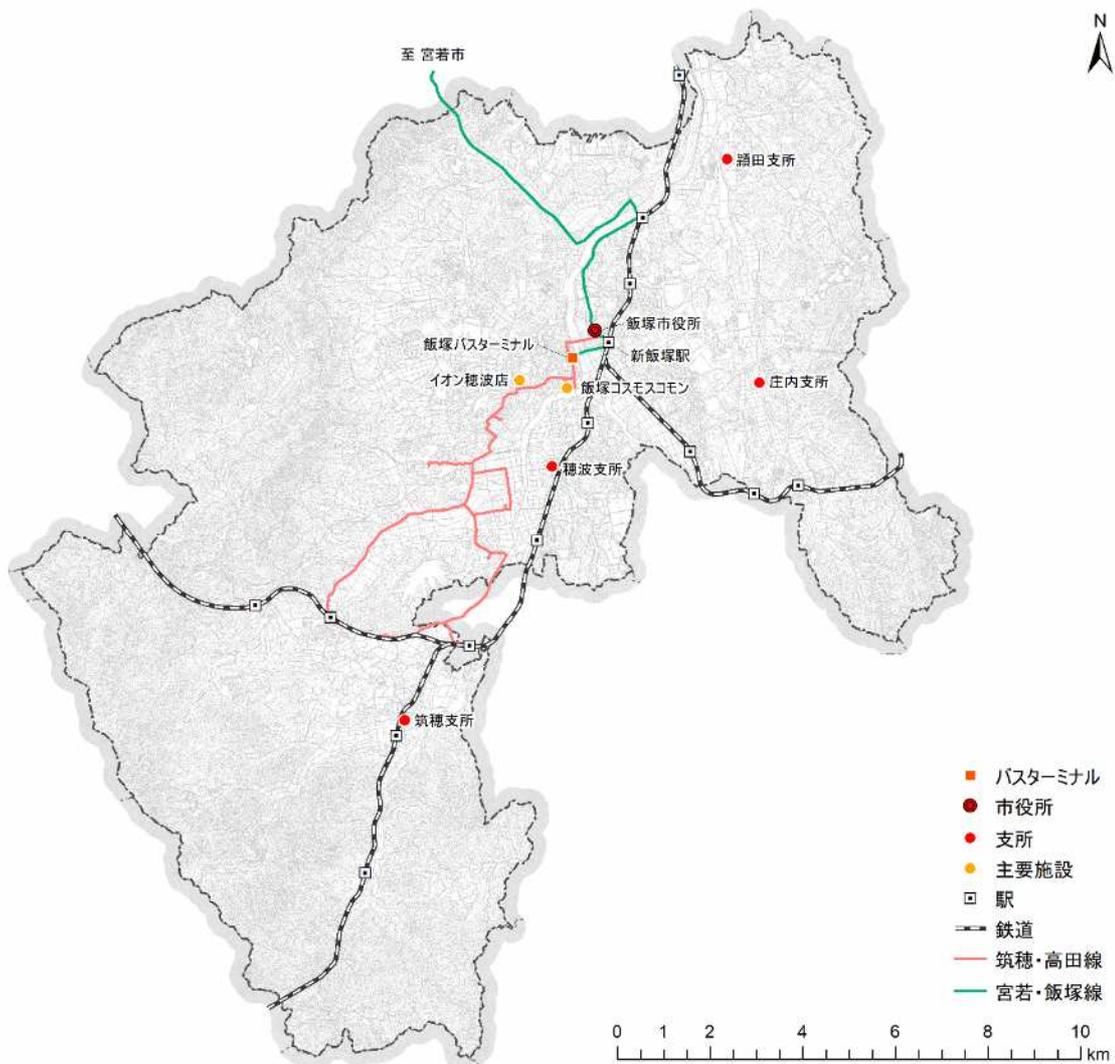


資料：西鉄ホームページ
※令和4年9月1日現在

▲ 民間バス路線図

3) コミュニティバスの概況

- 飯塚市では地区間の移動支援のために、路線バスを補完することを目的としたコミュニティバスを運行しています。
- 飯塚市のコミュニティバスは、市単独運行1路線、宮若市との共同運行1路線の合計2路線となっています。
- コミュニティバスは、民間路線バスとの運行ルート重複の見直しなどを行い、市単独4路線を1路線への再編を行いました。令和4年度から「穎田・飯塚線」、「庄内・飯塚線」を廃止し、「筑穂・飯塚線」と「高田・鎮西線」を統合した「筑穂・高田線」へ改編しています。また、宮若・飯塚線は廃止となったJR九州バスの代替交通機関として、令和元年10月に運行を開始しています（令和2年10月に一部変更）。
- 筑穂・高田線の運賃は、一般が200円均一、小学生以下は無料、障がい者手帳の提示者は100円均一となっており、平日のみの運行となっています。宮若・飯塚線は距離制運賃を採用しており、平日の他、土日祝日も運行しています。



資料：飯塚市「コミュニティ交通」利用ガイド
※令和4年9月1日現在

▲ 飯塚市コミュニティバス路線図

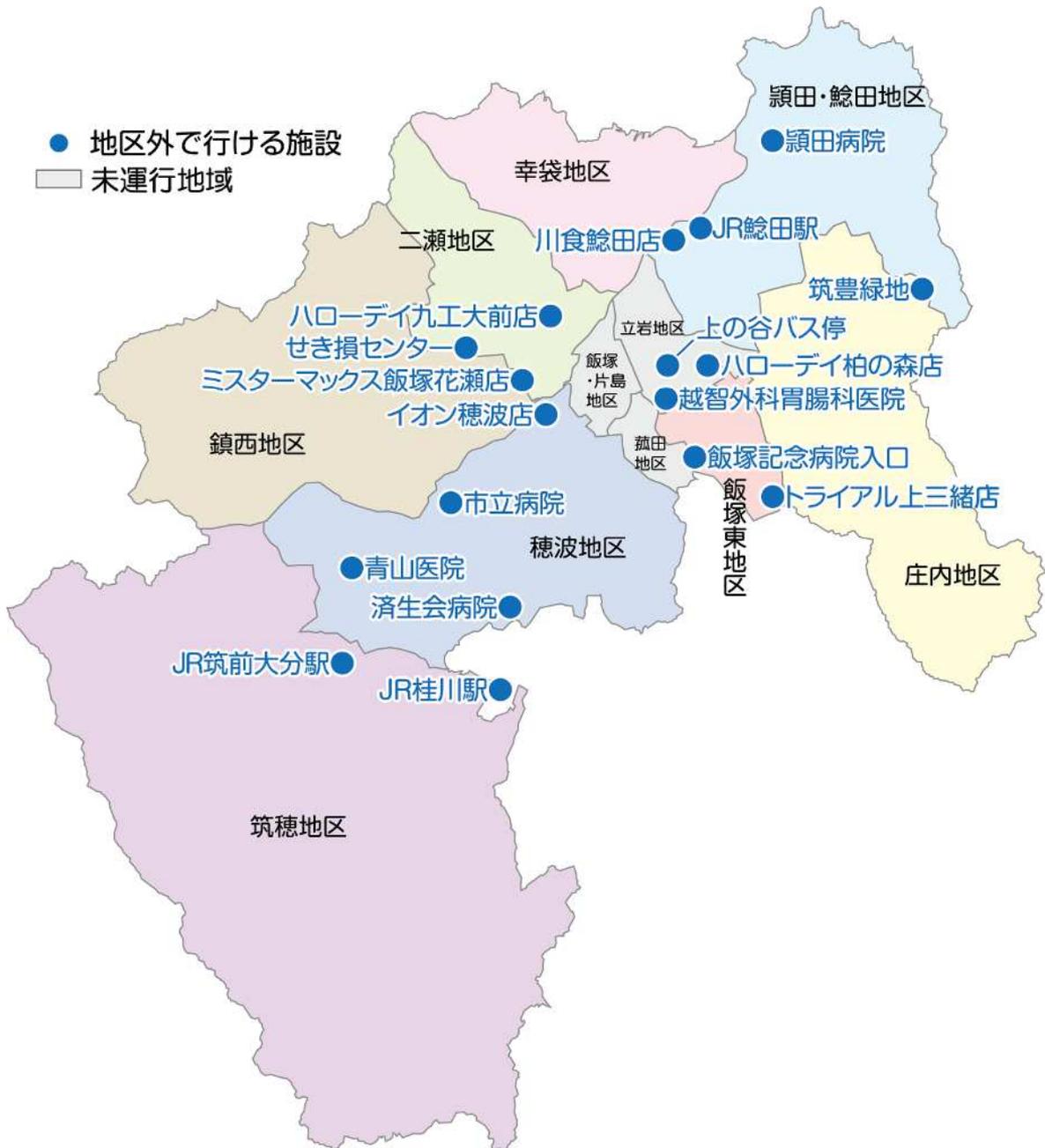
コミュニティバス運行本数及び運行事業者

令和4年9月1日現在

路線名	運行経路	運行本数			関係市町
		平日	土曜	日曜	
筑穂・高田線	桂川駅(北口)→飯塚市役所	1	—	—	—
	大分駅→飯塚市役所	2	—	—	
	飯塚市役所→桂川駅(北口)	1	—	—	
	飯塚市役所→大分駅	1	—	—	
	街なか子育てひろば前→大分駅	1	—	—	
宮若・飯塚線	吉原町→宮田	5	3	3	宮若市
	宮田→吉原町	5	3	3	

4) 予約乗合タクシーの概況

- 予約乗合タクシーは、身近な地区内の移動支援のために、同一地区内に限りドア・ツー・ドアによる移動を可能とした公共交通機関です。
- 利用には事前の利用登録と利用予約が必要であり、ご利用希望の方が複数いる場合には乗り合いによる運行となることがあります。
- 運賃は一般が300円均一、小学生以下は無料、障がい者手帳の提示者は200円均一となっており、平日のみの運行となっています。
- 同一地区内の移動が原則ですが、一部の施設においては地区外であっても行くことが出来るよう便宜が図られています。



資料：飯塚市「コミュニティ交通」利用ガイド
※令和4年9月1日現在

▲ 飯塚市予約乗合タクシー運行地区

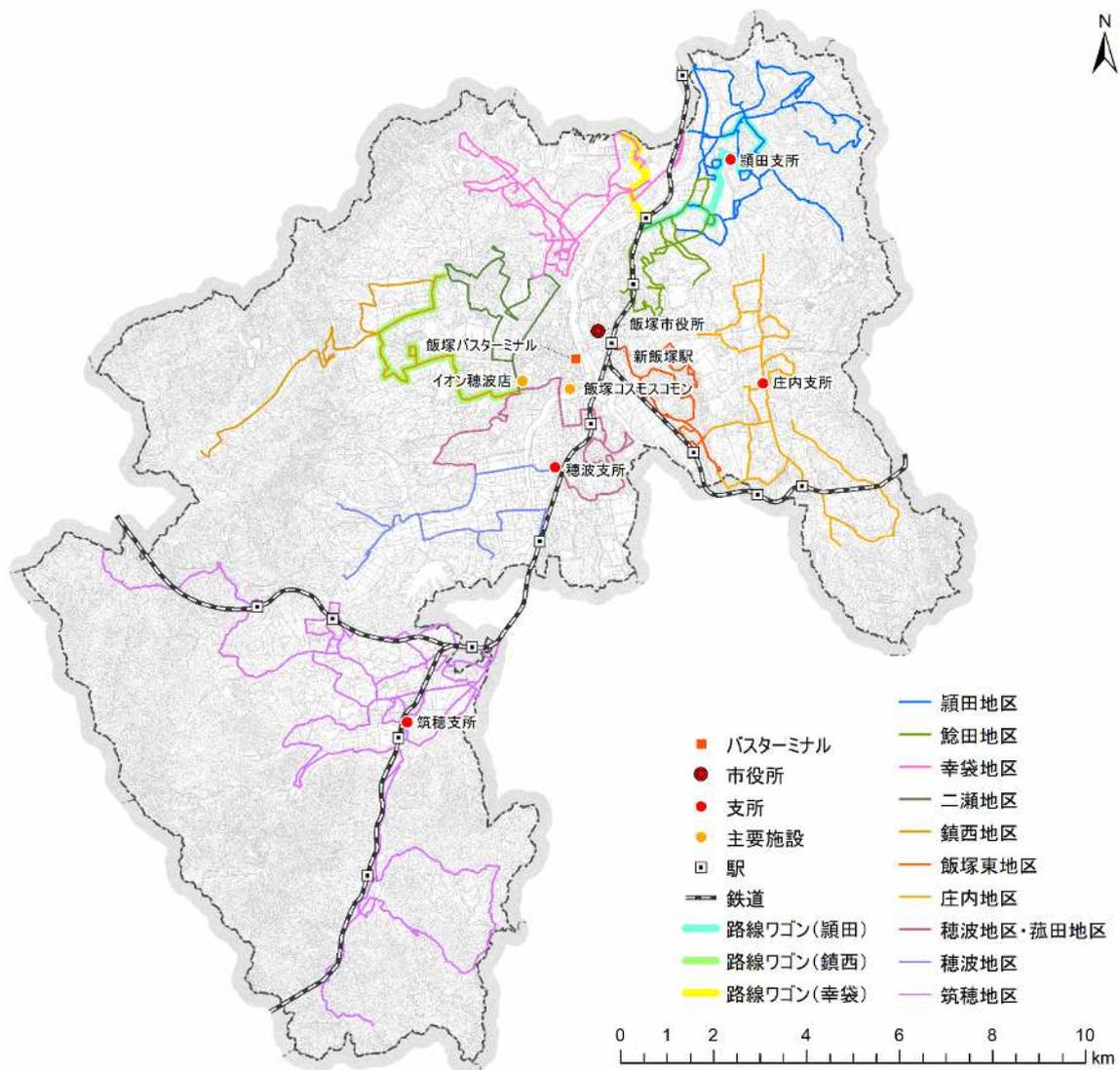
予約乗合タクシー運行曜日

令和4年9月1日現在

運行地区	運行曜日							運行台数
	月	火	水	木	金	土	日	
穎田・鯉田地区	○	○	○	○	○	-	-	1台
幸袋地区	○	○	○	○	○	-	-	1台
穂波地区	○	○	○	○	○	-	-	2台
筑穂地区	○	○	○	○	○	-	-	3台
庄内地区	○	○	○	○	○	-	-	1台
飯塚東地区	○	○	○	○	○	-	-	
鎮西地区 (八木山地区以外)	○	○	○	○	○	-	-	1台
二瀬地区	○	○	○	○	○	-	-	1台
鎮西・二瀬地区 (主に八木山地区)	○	○	○	○	○	-	-	1台

5) エリアワゴン・路線ワゴンの概況

- 飯塚市では、各地区のまちづくり協議会が運行していた「買物ワゴン」を継承するなどして、地区内を定時定路線型の「エリアワゴン」を運行しています。
- エリアワゴンは、市内10地区で運行しており、運行曜日は地区によって異なります。
- また、民間バスの路線縮小等に伴い、幸袋地区、鎮西地区、穎田地区では「路線ワゴン」を運行しています。
- エリアワゴン、路線ワゴンともに、運賃は一般が100円均一、小学生以下は無料、障がい者手帳の提示で介護者（1名）は無料となっています。



資料：飯塚市「コミュニティ交通」利用ガイド
※令和4年9月1日現在

▲ エリアワゴン路線図

エリアワゴン運行本数

令和4年9月1日現在

運行地区	系統	運行本数						
		月	火	水	木	金	土	日
穎田	地区内全域	-	-	12	-	-	12	-
鯉田	地区内全域	-	3	-	-	-	3	-
幸袋	地区内全域	-	-	-	12	-	12	-
鎮西	地区内全域	-	4	-	-	4	4	-
二瀬	地区内全域	-	5	-	-	5	5	-
飯塚東	地区内全域	2	-	2	-	2	4	-
	柏の森ヒルズ系統	8	8	8	8	8	8	-
庄内	地区内全域	-	2	-	2	-	4	-
	赤坂橋系統	3	3	3	3	3	3	-
穂波・菰田	穂波・菰田2地区一体運行	8	8	4	4	8	8	-
	高田系統	-	-	4	4	-	6	-
筑穂	大分線	-	4	-	4	-	4	-
	内野線	-	5	-	5	-	5	-
	上穂波線	-	4	-	4	-	4	-
	内野・内住線	-	-	-	-	-	2	-

資料：飯塚市「コミュニティ交通」利用ガイド、飯塚市提供資料

路線ワゴン運行本数

令和4年9月1日現在

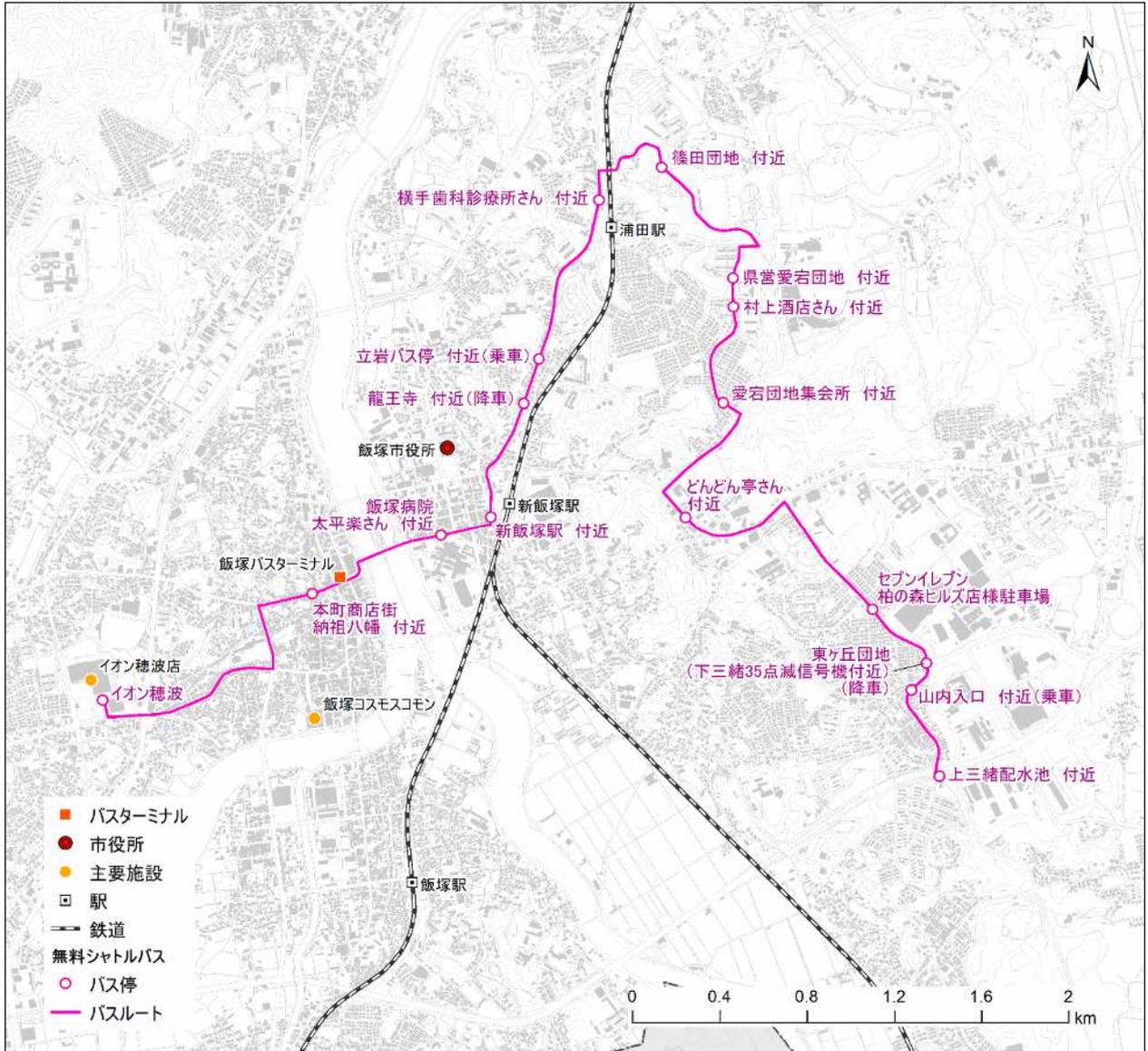
運行地区	区間	運行本数						
		月	火	水	木	金	土	日
穎田	穎田病院～川食鯉田店	4	4	4	4	4	-	-
鯉田・幸袋	吉北団地～鯉田駅	5	5	5	5	5	-	-
鎮西	二瀬病院～イオン穂波点	7	2	7	7	2	-	-

資料：飯塚市「コミュニティ交通」利用ガイド、飯塚市提供資料

6) その他の地域公共交通資源の状況

- 商業施設（イオン）送迎バス

● イオン穂波店では買い物客専用の無料シャトルバスを運行しており、運行ルートは下図のとおりです。



資料：誠心物流（株）ホームページ
※令和4年9月1日現在

▲ イオン穂波ショッピングセンター無料シャトルバス路線図

イオン穂波ショッピングセンター無料シャトルバス運行本数（イオン発）

令和4年9月1日現在

路線名	運行経路	運行本数		
		平日	土曜	日曜
イオン穂波SC	上三緒配水池付近→イオン穂波ショッピングセンター	5	5	5
	イオン穂波ショッピングセンター→上三緒配水池付近	5	5	5

● スクールバスの一般混乗

- 八木山地区（鎮西地区）及び内野地区（筑穂地区）では、スクールバスの一般混乗を行っています。スクールバスは定時定路線型運行で、児童・生徒の登校日に運行しています。この時、一般市民も乗車することができます。

八木山地区スクールバス運行本数

運行時期	運行本数
学校開校日	朝3便、夕1便
土曜日のうち飯塚鎮西中学校が部活動を行う日	朝1便、昼2便、夕1便
休業期間中※1	夕1便
学校行事に伴い、土日に開校する日（昼放課、夕方放課あり）	朝1便、昼及び夕1便

※夏季、冬季、春季のうち盆休み（8/13～8/15）及び年末年始（12/29～1/3）を除いた平日

内野地区スクールバス桑曲線運行本数

運行時期	運行本数
学校開校日	朝2便
土曜日のうち筑穂中学校が部活動を行う日	朝1便
休業期間中※1	朝1便
学校行事に伴い、土日に開校する日（昼放課、夕方放課あり）	朝1便

※夏季、冬季、春季のうち盆休み（8/13～8/15）及び年末年始（12/29～1/3）を除いた平日

2-4 飯塚市の地域公共交通の利用状況

1) 鉄道の利用状況

- 新飯塚駅の利用者は平成30年度までは堅調に伸びていますが、その他の駅の利用者は横ばいまたは減少傾向となっています。
- 令和2年度は新型コロナの影響もあり、各駅の利用者数は急減しています。

▼ JR九州駅別・年度別乗客数

(単位:人/日)

	福北ゆたか線						後藤寺線		原田線		
	鯉田駅	浦田駅	新飯塚駅	飯塚駅	天道駅	筑前大分駅	九郎原駅	上三緒駅	筑前庄内駅	上穂波駅	筑前内野駅
平成28年度	389	100人以上	4,434	1,134	537	732	-	-	-	-	-
平成29年度	393	100人以上	4,503	1,141	548	731	-	-	-	-	-
平成30年度	367	100人以上	4,520	1,122	563	706	-	-	-	-	-
令和元年度	361	100人以上	4,494	1,126	566	678	-	-	-	-	-
令和2年度	279	100人以上	2,994	757	415	468	-	-	-	-	-

※各駅乗車人員で集計

資料:九州旅客鉄道(株)

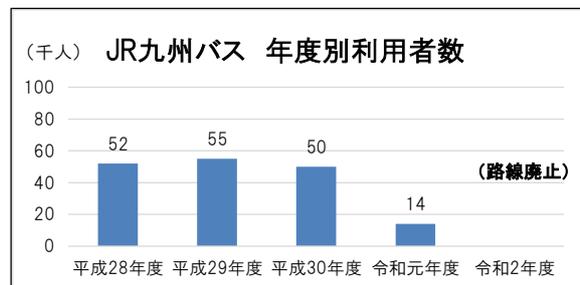
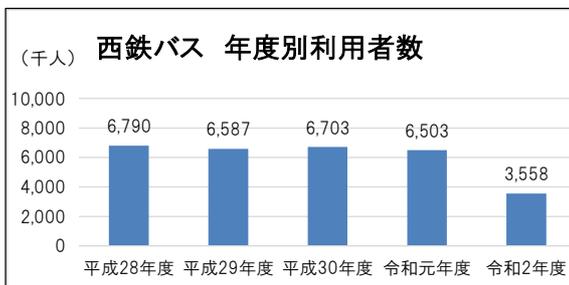
2) 民間路線バスの利用状況

- 民間路線バスの利用者数は減少傾向にあり、令和2年度は新型コロナの影響もあり、利用者数は急減しています。
- JR九州バスは令和元年9月30日をもって路線が廃止となっています。

▼ 民間路線バス年度別乗客数

(単位:千人)

	西鉄バス	JR九州バス	合計
平成28年度	6,790	52	6,842
平成29年度	6,587	55	6,642
平成30年度	6,703	50	6,753
令和元年度	6,503	14	6,517
令和2年度	3,558	(路線廃止)	3,558



※JR九州バス 市内笠置橋～新飯塚駅間

※JR九州バスは、令和元年9月30日の運行をもって廃止

資料:統計いづか

▲ 民間路線バス年度別乗客数

3) コミュニティ交通全体の利用状況

- 予約乗合タクシーとコミュニティバスは、令和元年度まで増加傾向にありましたが、令和2年度以降は新型コロナの影響で利用者数が急減しています。
- 西鉄バスの一部区間廃止に伴い、令和2年10月より定時定路線型の「路線ワゴン」の運行を開始し、令和3年度の利用者数は4,364人となっています。
- また、JR九州バスの一部区間廃止に伴い、令和元年10月より宮若市と共同でコミュニティバス「宮若・飯塚線」の運行を開始し、令和3年度の利用者数は12,538人となっています。

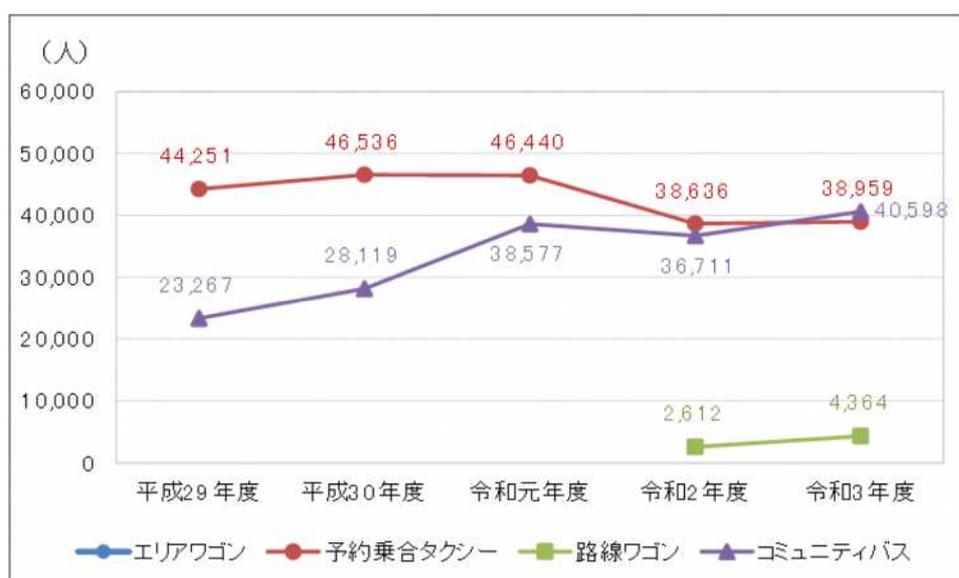
▼ 飯塚市コミュニティ交通 利用者数

(単位:人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度※
エリアワゴン	-	-	-	-	-	5,098
予約乗合タクシー	44,251	46,536	46,440	38,636	38,959	6,425
路線ワゴン	-	-	-	2,612	4,364	547
コミュニティバス	23,267	28,119	38,577	36,711	40,598	4,219
コミュニティバス(飯塚市)	23,267	28,119	31,071	26,330	28,060	1,893
コミュニティバス(宮若市と共同運行)	-	-	7,506	10,381	12,538	2,326

※令和4年度は6月末までの合計

資料: 飯塚市提供資料



※エリアワゴンは令和4年から運行開始

資料: 飯塚市提供資料

▲ 年度別 飯塚市コミュニティ交通 利用者数

4) コミュニティバスの利用状況

年度別利用者数

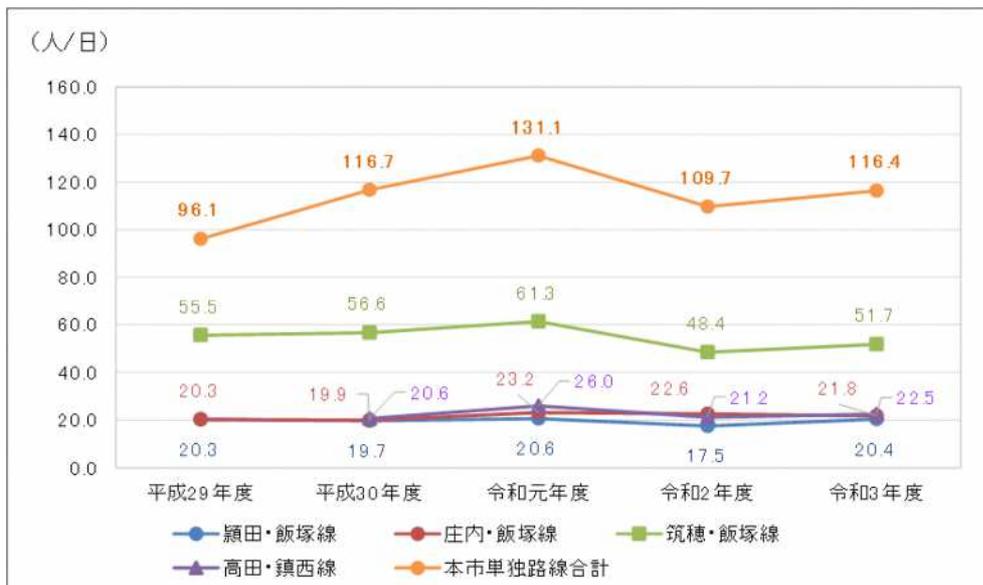
- 延べ利用者数は令和元年度まで増加傾向にありましたが、新型コロナの影響で令和2年度には急減しています。令和3年度の延べ利用者数は28,060人で令和2年度より1,730人増加しています。
- 本市単独路線全体の1日あたりの利用者数は、令和元年まで増加傾向にありましたが、新型コロナの影響で令和2年度には減少しています。令和3年度の1日あたりの利用者数は116.4人で令和2年度より6.7人増加しています。



資料：飯塚市提供資料

▲ コミュニティバス 年度別 路線別利用者数

1日あたりの利用者数



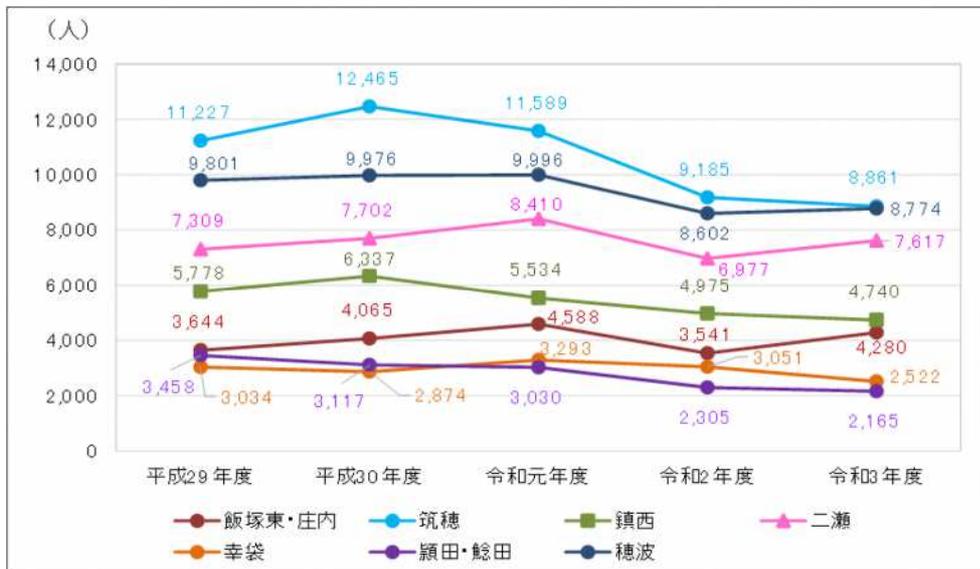
資料：飯塚市提供資料

▲ 年度別 コミュニティバス 路線別1日あたりの利用者数

5) 予約乗合タクシーの利用状況

年度別利用者数

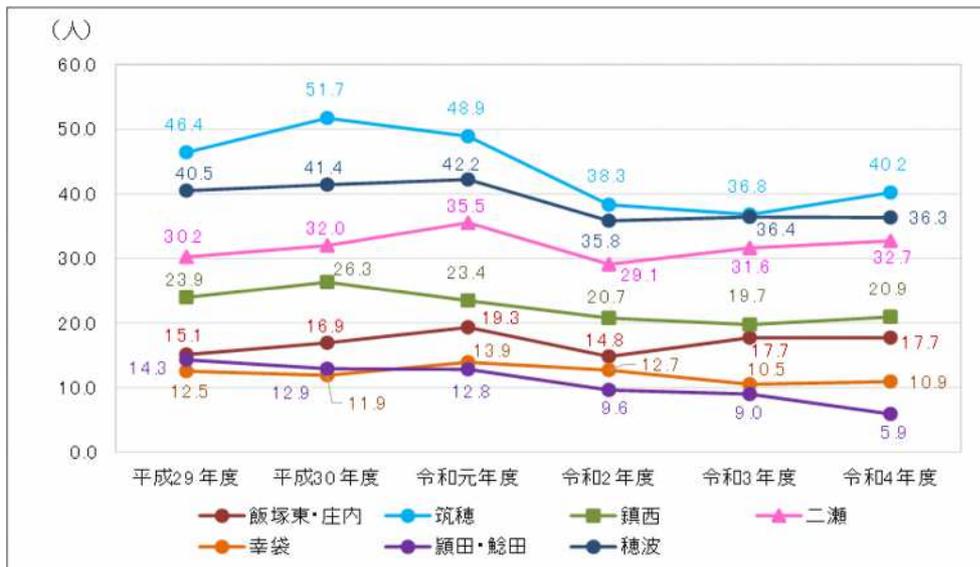
- 運行地区別の利用者数をみると、筑穂地区、鎮西地区では平成30年度まで増加傾向、穂波地区、二瀬地区、飯塚東・庄内地区では令和元年度まで増加傾向、令和2年度以降減少に転じています。穎田・鯉田地区は平成29年度以降減少傾向となっています。
- 1日平均利用者数は、令和元年度までは各地区増加傾向、横ばいでしたが、令和2年度には新型コロナの影響で減少しています。令和3年度以降、筑穂地区、二瀬地区、鎮西地区の1日平均利用者数は微増傾向にありますが、そのほかの地区では横ばい、減少傾向となっています。



資料：飯塚市提供資料

▲ 年度別 予約乗合タクシー 運行地区別利用者数

1日平均利用者数



※令和4年度は5月末時点

資料：飯塚市提供資料

▲ 年度別 予約乗合タクシー 運行地区別1日平均利用者数

6) エリアワゴンの利用状況

月別利用者数

- エリアワゴンの月別利用者数は、飯塚東地区、菰田地区は増加傾向にあり、1 ヶ月に約 500～600 人が利用しています。
- 1 日平均利用者数は、幸袋地区、颯田地区、菰田地区で 20 人以上となっています。



※エリアワゴンは令和4年4月より運行開始
資料：飯塚市提供資料

▲ 月別 エリアワゴン 運行地区別利用者数

1 日平均利用者数



※エリアワゴンは令和4年4月より運行開始
資料：飯塚市提供資料

▲ 月別 エリアワゴン 運行地区別1日平均利用者数

7) 路線ワゴンの利用状況

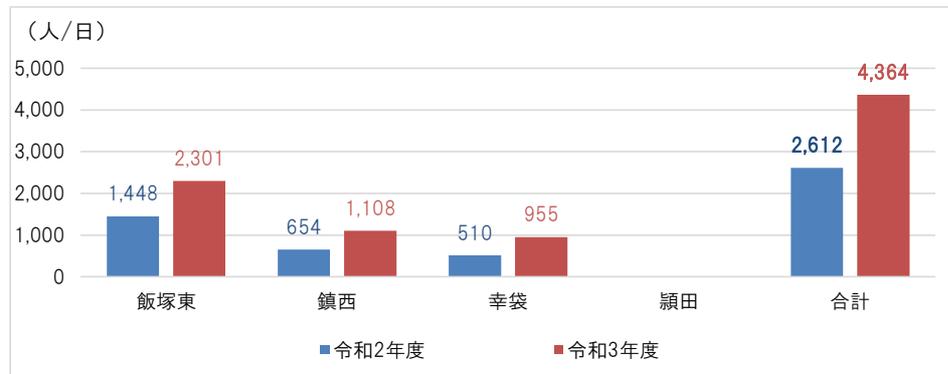
利用者数

- 路線ワゴン全体の1日平均利用者数は、令和2年度以降減少傾向にあり、令和4年度5月末時点では4.7人となっています。
- 運行地区別にみると、令和4年度5月末時点で鎮西地区は7.8人、幸袋地区は4.4人、穎田地区は1.8人となっています。

▼ 年度別 路線ワゴン 運行地区別利用者数

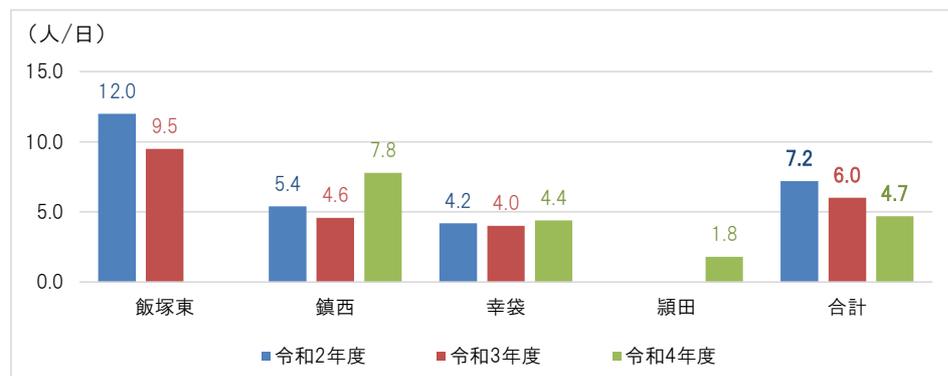
		飯塚東	鎮西	幸袋	穎田	合計
利用者数 (人)	令和2年度	1,448	654	510	-	2,612
	令和3年度	2,301	1,108	955	-	4,364
	令和4年度	-	304	173	70	547
1日平均利用者数 (人/日)	令和2年度	12.0	5.4	4.2	-	7.2
	令和3年度	9.5	4.6	4.0	-	6.0
	令和4年度	-	7.8	4.4	1.8	4.7

※令和4年度は5月末時点
 ※飯塚樋勝・鎮西・幸袋は令和2年10月より運行開始、穎田は令和4年4月より運行開始
 ※飯塚東は令和4年4月からエリアワゴンの一部として運行しているため、路線ワゴン廃止
 資料：飯塚市提供資料



▲ 年度別 路線ワゴン 運行地区別利用者数

1日平均利用者数



資料：飯塚市提供資料

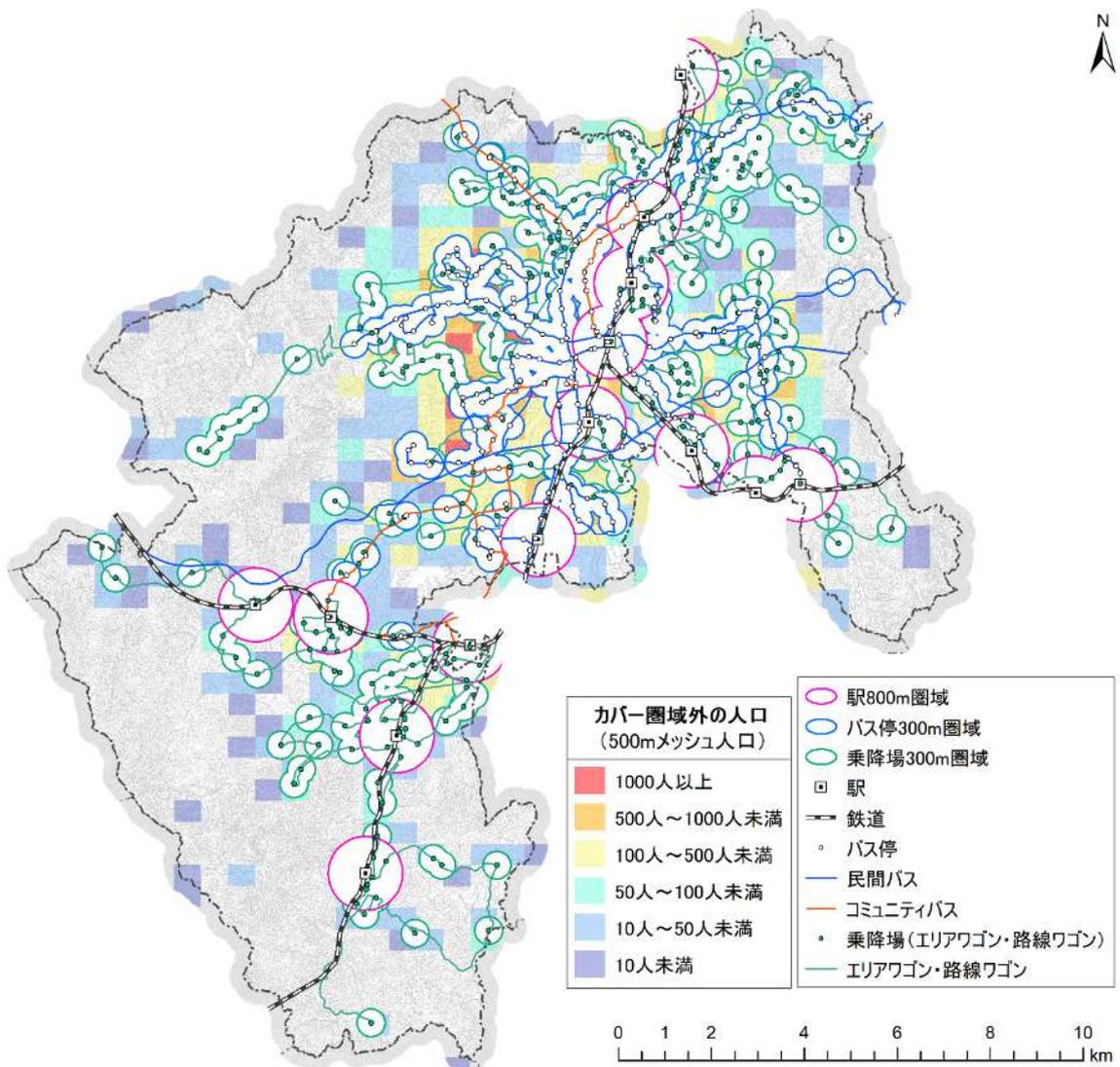
▲ 年度別 路線ワゴン 運行地区別1日平均利用者数

2-5 公共交通のカバー状況

定時定路線型の運行体系である鉄道や路線バスの利用が比較的容易である、駅から800m圏内またはバス停から300m圏内のカバー状況を整理しました。

本市においては、民間及び行政の公共交通機関により、河川付近等の一部を除き、ほぼ全域をカバーしています。

- 定時定路線型の運行でカバーしきれていない地域は、山間部や郊外の人口が少ない地域で多く存在し、二瀬地区や鎮西地区、穂波地区の比較的人口の多いエリアにも一部みられますが、人口100人以上の地域は概ねカバーされています。
- 本市には市内中心部の3地区（菰田地区、飯塚・片島地区、立岩地区）を除き、同一地区内であればどこにでも行くことが可能なデマンド型の公共交通（予約乗合タクシー）があり、定時定路線型の公共交通機関の交通空白地域を補完しています。



※圏域は「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」を参考に設定

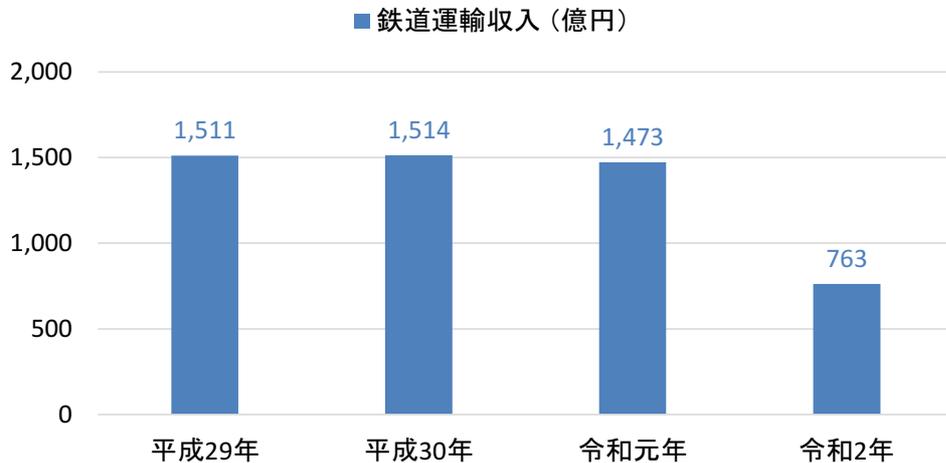
▲定時定路線型公共交通によるカバー圏域

2-6 飯塚市の地域公共交通の財政状況

飯塚市内の公共交通に関する財政状況について整理しました。なお、鉄道及び民間路線バスは飯塚市内に絞った詳細な資料が入手困難なため、各事業者が公開している資料を基に、各事業の収支状況等を整理しました。

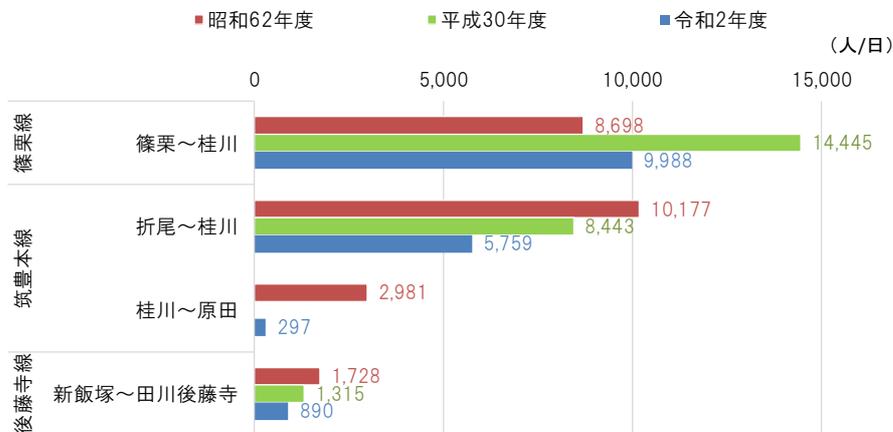
1) 鉄道の財政状況

- 鉄道輸出入は令和元年まで増減を繰り返していますが、令和2年には新型コロナの影響で急減し、令和元年の約半分の763億円となっています。
- 平均通過人員を見ると、篠栗～桂川間（篠栗線）は昭和62年度から平成30年度にかけて利用者が大きく増加していますが、同線の折尾～桂川間（筑豊本線）、原田線の桂川～原田間（筑豊本線）、後藤寺線の新飯塚～田川後藤寺間については利用者が大きく減少しています。令和2年度には新型コロナの影響で各路線とも利用者が急減しています。



資料：JR九州ホームページ

▲ JR九州 鉄道運輸収入推移



※平成30年の筑豊本線（桂川～原田）は運転見合わせ期間があったため未開示

資料：JR九州ホームページ

▲ JR九州 路線別平均通過人員

「平均通過人員」は、利用客の1kmあたりの人数を表し、以下の計算により算出している。

【平均通過人員】＝【各路線の年度内の旅客輸送人キロ】÷【当該路線の年度内営業キロ】÷【年度内営業日数】

2) 民間路線バスの財政状況

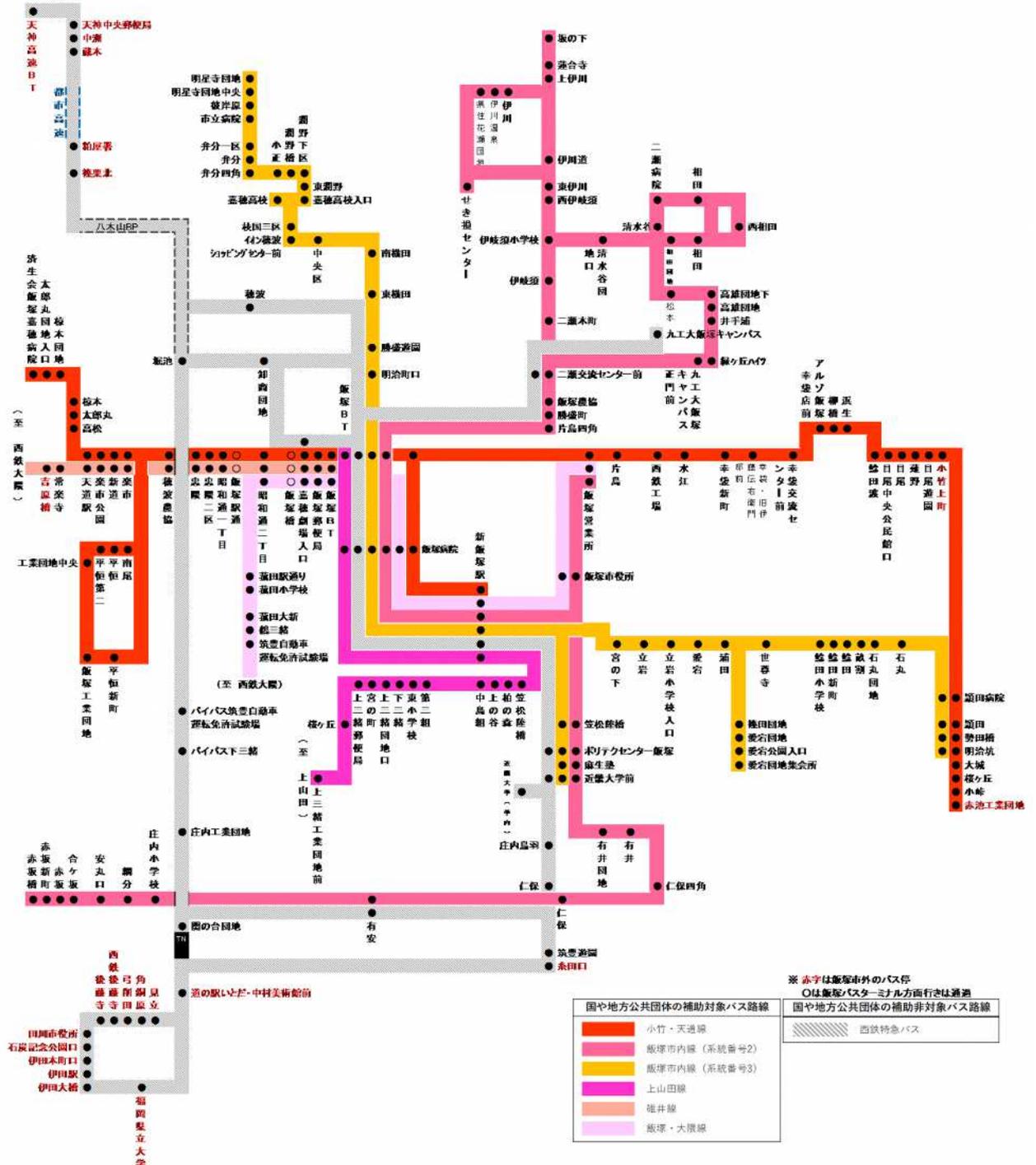
- 運送収入及び輸送人員ともに令和元年度まで概ね横ばい、令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響で、令和元年度の約7割程度まで減少しています。



資料：西鉄ホームページ

▲西鉄バスグループ年間運送収入と年間輸送人員の推移（乗合バス）

- 民間バス路線において、路線維持を目的とし国及び県や市などの地方公共団体の補助金対象路線は5路線となっています。



資料：飯塚市提供資料、西鉄ホームページ

※令和4年9月1日時点

▲飯塚市内の民間バス路線図と補助金交付状況

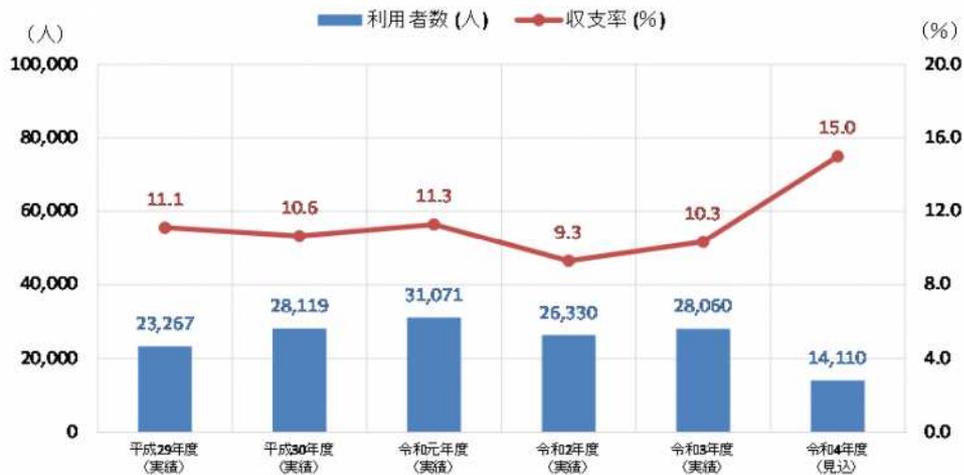
3) コミュニティバスの財政状況

- コミュニティバスの令和3年度における収支率(運行事業費に対する運賃収入の割合)は10.3%で、利用者1人あたりかかる運行事業費は1,387円となっています。

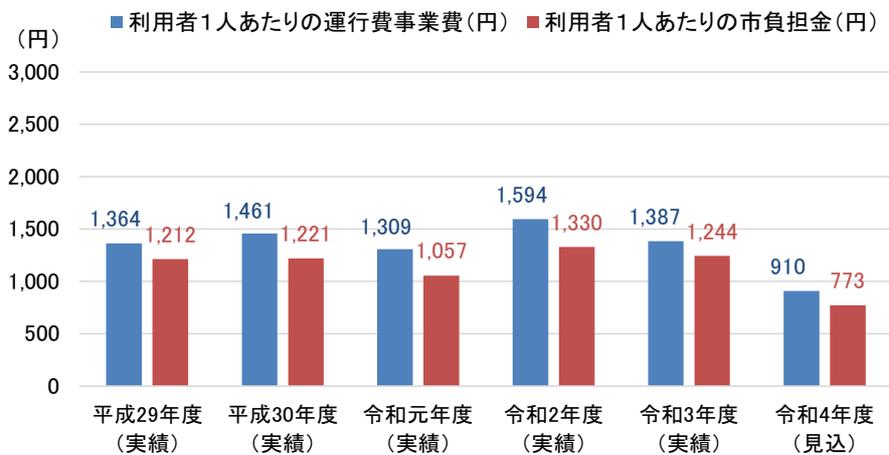
▼ コミュニティバス 年度別 事業費

項目	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (見込)
コミュニティバス	利用者数	(人)	23,267	28,119	31,071	26,330	28,060
	運行事業費	(千円)	31,731	41,072	40,679	41,960	38,919
	運賃収入	(千円)	3,524	4,371	4,589	3,898	4,021
	補助金等	(千円)	0	2,359	3,244	3,044	0
	市負担金	(千円)	28,206	34,342	32,847	35,019	34,898
収支率	(%)	11.1	10.6	11.3	9.3	10.3	15.0
利用者1人あたりの運行費事業費	(円)	1,364	1,461	1,309	1,594	1,387	910
利用者1人あたりの市負担金	(円)	1,212	1,221	1,057	1,330	1,244	773

資料：飯塚市提供資料



▲ コミュニティバス 年度別 収支率



資料：飯塚市提供資料

▲ コミュニティバス 年度別 利用者1人あたりの事業費と負担金

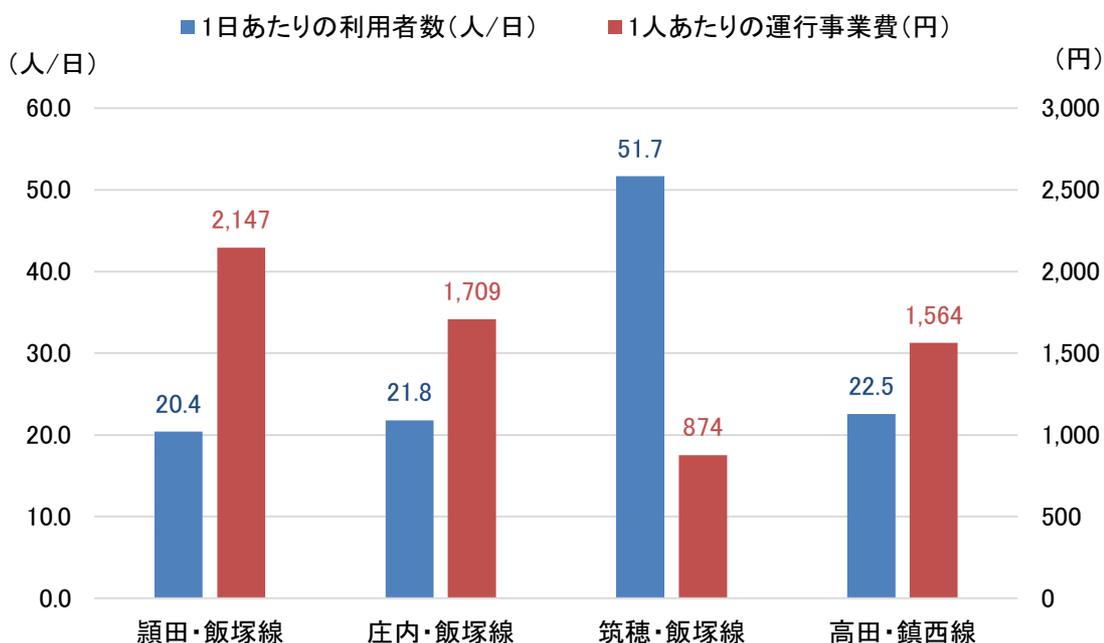
路線別

- 路線別の1人あたりの運行事業費では、穎田・飯塚線が最も高く2,147円となっており、最も低い筑穂・飯塚線は874円となっています。

▼ 令和3年度 コミュニティバス 路線別事業費

計算式	A	B	C: B/A	D	E: D/A
路線	運行日数 (日)	利用者数 (人)	1日あたりの 利用者数 (人/日)	運行事業費 (円)	1人あたりの 運行事業費 (円)
穎田・飯塚線	241	4,919	20.4	10,560,000	2,147
庄内・飯塚線	241	5,251	21.8	8,972,700	1,709
筑穂・飯塚線	241	12,457	51.7	10,890,000	874
高田・鎮西線	241	5,433	22.5	8,496,400	1,564
コミュニティバス 計	241	28,060	116.4	38,919,100	1,387

資料：飯塚市提供資料



資料：飯塚市提供資料

▲ 令和3年度 コミュニティバス 路線別 利用者1人あたりの事業費

4) 予約乗合タクシーの財政状況

- 予約乗合タクシーの令和3年度における収支率(運行事業費に対する運賃収入の割合)は12.3%で、利用者1人あたりかかる運行事業費は1,681円となっています。

▼ 予約乗合タクシー 年度別 事業費

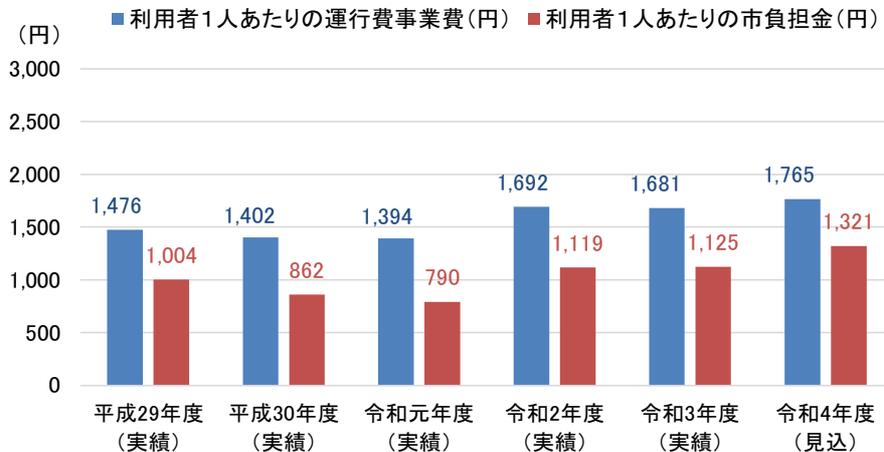
項目	単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (見込)	
予約乗合タクシー	利用者数	(人)	44,251	46,536	46,440	41,248	43,323	45,728
	運行事業費	(千円)	65,320	65,242	64,724	69,798	72,805	80,689
	運賃収入	(千円)	10,462	10,820	10,511	8,519	8,951	8,549
	補助金等	(千円)	10,429	14,319	17,519	15,135	15,135	11,735
	市負担金	(千円)	44,429	40,103	36,693	46,144	48,718	60,405
収支率	(%)	16.0	16.6	16.2	12.2	12.3	10.6	
利用者1人あたりの運行費事業費	(円)	1,476	1,402	1,394	1,692	1,681	1,765	
利用者1人あたりの市負担金	(円)	1,004	862	790	1,119	1,125	1,321	

資料：飯塚市提供資料

※運行事業費には管理システム使用料と予約受付業務委託料を含む



▲ 予約乗合タクシー 年度別 収支率



資料：飯塚市提供資料

▲ 予約乗合タクシー 年度別 利用者1人あたりの事業費と負担金

運行地区別

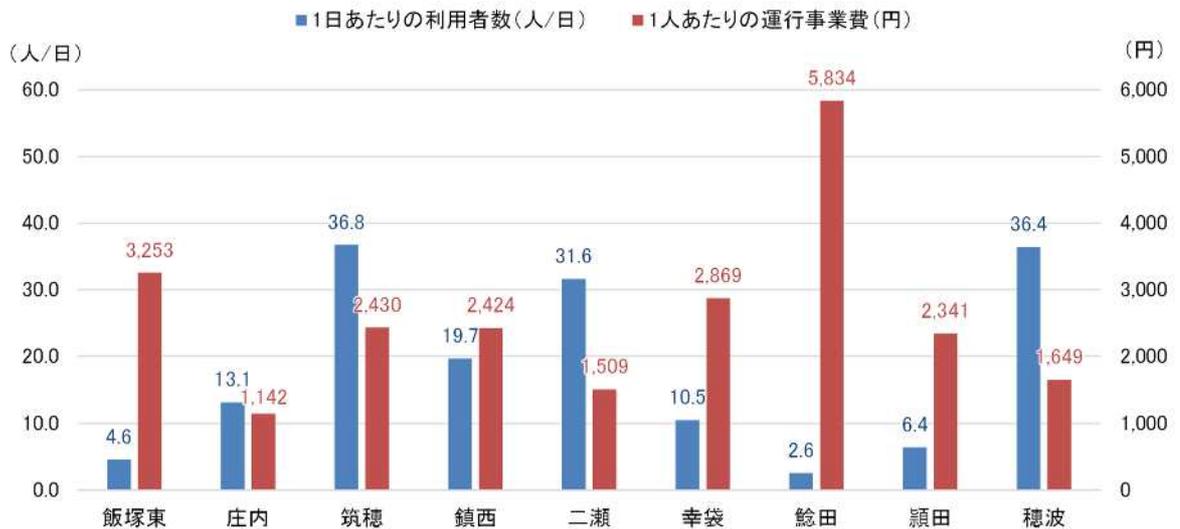
- 運行地区別の1人あたりの運行事業費では、鯉田地区が最も高く5,834円となっており、庄内地区が最も低く1,142円となっています。

▼ 令和3年度 予約乗合タクシー 運行地区別事業費

計算式	A	B	C:B/A	D	E	F:E/B	備考
地区	運行日数 (日)	利用者数 (人)	1日あたりの 利用者数 (人/日)	運行台数 【按分用】 (台)	1地区の 運行事業費 (円)	1人あたりの 運行事業費 (円)	
飯塚東	241	1,112	4.6	0.5	3,617,240	3,253	飯塚東と庄内の2地区を1台で運行
庄内	241	3,168	13.1	0.5	3,617,240	1,142	飯塚東と庄内の2地区を1台で運行
筑穂	241	8,861	36.8	3.0	21,535,140	2,430	3台で運行
鎮西	241	4,740	19.7	1.5	11,490,820	2,424	鎮西と二瀬で1台ずつ運行のほか、 両地区を跨る車両が1台ある
二瀬	241	7,617	31.6	1.5	11,490,820	1,509	鎮西と二瀬で1台ずつ運行のほか、 両地区を跨る車両が1台ある
幸袋	241	2,522	10.5	1.0	7,234,480	2,869	
鯉田	241	620	2.6	0.5	3,617,240	5,834	鯉田と頼田の2地区を1台で運行
頼田	241	1,545	6.4	0.5	3,617,240	2,341	鯉田と頼田の2地区を1台で運行
穂波	241	8,774	36.4	2.0	14,468,960	1,649	2台で運行
予約乗合タクシー 計	241	38,959	161.7	11.0	80,689,180	2,071	

資料：飯塚市提供資料

※運行事業費には管理システム使用料と予約受付業務委託料を含む



資料：飯塚市提供資料

▲ 令和3年度 予約乗合タクシー 運行地区別 利用者1人あたりの事業費